USA's primary source for projector lamps
myprojectorlamps

プロジェクター所有者の取扱説明書

BenQ

SP830

このプロジェクターの交換用ランプが必要ですか？

www.mplamps.co.jp

メーカーオリジナル取扱説明書。MyProjectorLamps.comの厚意として、修正せずに提供しています。
すべての商標は、それぞれの所有者の所有物です。

mplamps.co.jp
プロジェクターランプ業界最大級のオンラインショップ

プロジェクターランプの交換時ですか？

お使いのBenQ SP830の交換用ランプは、現在入手可能です。



BenQ SP830プロジェクターランプ

部品番号：5J.J1Y01.001 / 5J.J2A01.001
モジュール付きのオリジナルランプ（取付準備完了）
180日間保証

21,930円から

コードをスキャンするかアクセスする

www.mplamps.co.jp/projector-lamps/Benq/SP830.html

表示価格は、このページが作成された時の価格です。現在の価格はサイトをご確認ください。

BenQ

SP830/SP831 デジタル プロジェクタ
ユーザーズガイド

Welcome

目次

安全上のご注意 5

紹介 9

プロジェクタの特長 9
パッケージ内容 10
標準アクセサリ 10
別売りアクセサリ 10
プロジェクタ外観ビュー 11
制御装置および機能 12
プロジェクタ 12
リモートコントロール 13

設置 17

場所の選択 17
投写画像サイズの調整 18
使用するスクリーンサイズに対しプロジェクタの設置場所を決定する 18
設置する距離に対し推奨するスクリーンサイズを決定する 19
投写サイズ 20

接続 23

コンピュータの接続 23
モニタの接続 24
ビデオ機器との接続 25
オーディオ装置の接続 29

操作 31

プロジェクタの起動 31
メニューの使用方法 32
プロジェクタの保護 33
セキュリティケーブルロックの使い方 33
パスワード機能の使い方 33
入力ソースの切り替え 36
投写画像の調整 37
投写角度の調整 37

画像の自動調整 37
画像サイズと明瞭さの微調整 37
画像の歪みの補正する 38
縦横比の選択 40
投写画像の詳細を拡大および表示する 42
ピクチャモードの選択 43
画質の微調整 46
画質の詳細設定 47
高地での操作 51
画像を隠す 51
複数の画像ソースを同時に表示する 52
画像の分割 52
PIP (Picture In Picture) の操作 53
オリジナルのスタートアップ画面を作成する 55
プロジェクタのメニューディスプレイのカスタマイズ 56
音量調整 57
リモートからのページ操作 58
画像の静止 58
コントロールキーをロックする 59
プロジェクタの終了 59
メニューの操作 60
メニューシステム 60
ピクチャ -- 基本設定メニュー 63
ピクチャ -- 詳細設定メニュー 64
ディスプレイメニュー 65
システム設定メニュー 66
詳細セットアップメニュー 67
情報メニュー 68
メンテナンス 69
プロジェクタのお手入れ 69
レンズのクリーニング 69
プロジェクタケースのクリーニング 69
プロジェクタの保管 69
プロジェクタの移動 69
ランプについて 70

ランプ時間を知るには 70
ランプ寿命を延長する 70
ランプ交換のタイミング 71
ランプの交換 72
インジケータ 75

トラブルシューティング 76

仕様 78
プロジェクタの仕様 78
タイミングチャート 79
外形寸法 80

保証と著作権について 81

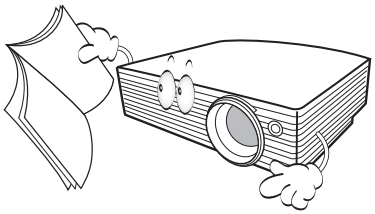
法規 82

1. 安全上のご注意

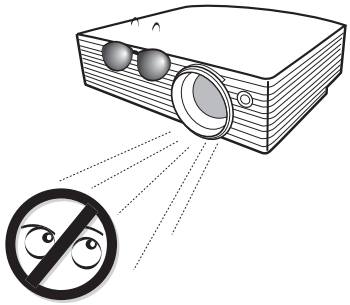
お使いの BenQ プロジェクタは、情報テクノロジ機器の最新の安全規格に適合するように設計され、テストされています。ただし、本装置を安全にご使用いただくために、このガイドおよび装置のマークに記載されている指示に従ってください。

安全上のご注意

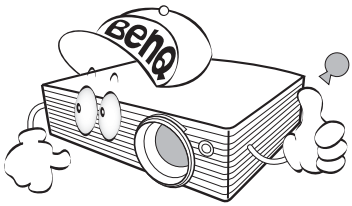
1. **プロジェクタを操作する前に、このユーザーズガイドをお読みください。**またいつでも参照できるように、手の届く場所に保管しておいてください。



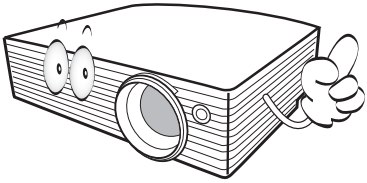
2. **動作中は、プロジェクタのレンズを覗き込まないでください。**光線が強力なので、視力障害を引き起こす恐れがあります。



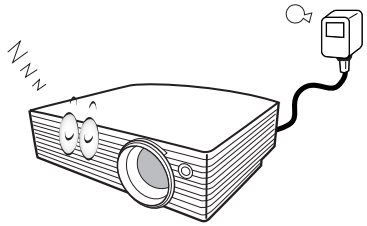
3. **点検修理については、認定サービス担当者にお問い合わせください。**



4. **プロジェクタのランプをオンにするときは、必ずレンズシャッターを開くか、レンズキャップを取り外してください。**



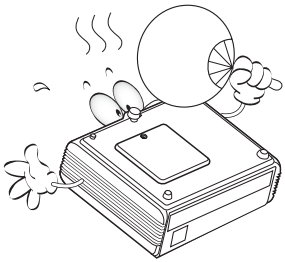
5. 国によっては、電源電圧が一定していない場合もあります。プロジェクタは、電源が AC100 ～ 240V の電圧範囲のときに安全に作動するように設計されていますが、停電や ±10V のサージが発生すると故障する可能性があります。**電源の電圧が変動したり、電源供給が中断したりする地域では、電源安定器、サージプロテクタ、または無停電電源装置（UPS）にプロジェクタを接続することをお薦めします。**



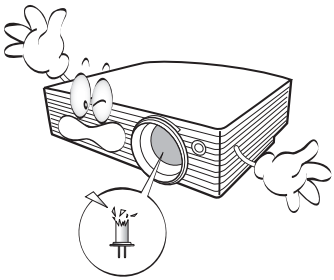
6. プロジェクタが作動しているときに投写レンズを物体で塞ぐと、それが過熱して変形したり、火災の原因となったりします。一時的にランプをオフにするには、プロジェクタかリモコンの BLANK ボタンを押してください。

安全上のご注意（続き）

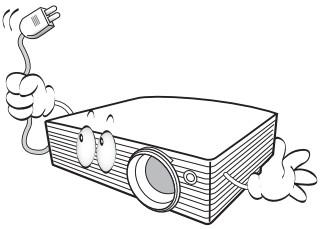
7. ランプは、動作中に非常に高温になります。ランプ部を取り外して交換する場合は、プロジェクタの電源を切ってから 45 分間ほど放置して、プロジェクタを常温に戻してください。



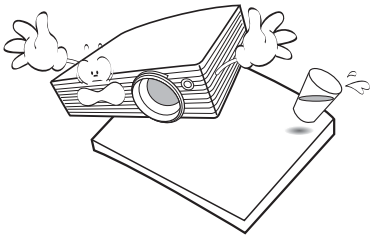
8. ランプは定格寿命より長く使用しないでください。ごくまれですが、定格寿命より長く使用すると、ランプが破裂することがあります。



9. ランプ部や電子部品の交換は、必ずプロジェクタの電源プラグを抜いてから行ってください。

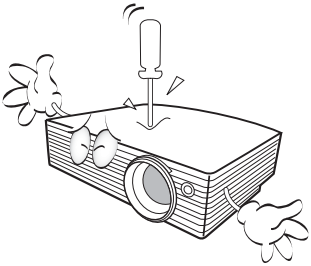


10. 本製品は安定した場所に設置してください。本製品が落下して、重大な損傷を受ける恐れがあります。



11. 本装置のキャビネットは開けないでください。内部には危険な電圧が流れており、触れると死に至る場合もあります。ユーザーが補修できる部分は専用の取り外し可能なカバーが付いているランプだけです。

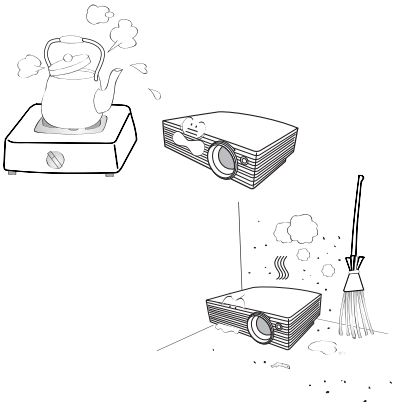
    いかなる状況においても、これ以外のカバーをご自身で取り外そうとしないでください。補修については、指定された専門の技術者にお尋ねください。



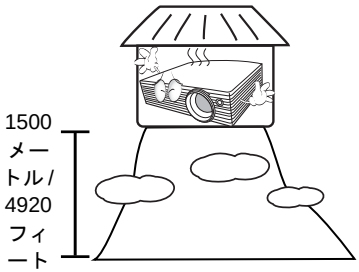
12. プロジェクタが稼動しているときには、通気孔から熱風と臭気を感じる場合があります。これは正常な状態であり、製品の欠陥によるものではありません。

安全上のご注意（続き）

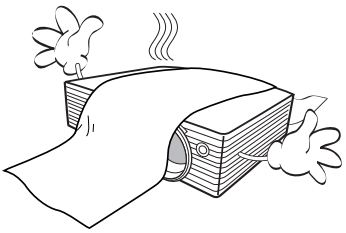
13. 次の場所に本装置を置かないでください。
    - 通気が不十分な場所または密閉されている場所。壁との間隔を 50cm 以上空けて、プロジェクタの周辺の風通しをよくしてください。
    - 窓を締め切った車内など、非常に高温になる場所。
    - 非常に湿度が高い場所、ほこりの多い場所、タバコの煙にさらされる場所。このような場所に置くと、光学部品が汚れ、プロジェクタの寿命が短くなり、画像が暗くなります。



    - 火災報知器に近い場所。
    - 周辺温度が 35ºC / 95ºF を超える場所。
    - 高度が 1500 メートル / 4920 フィートを超える場所。

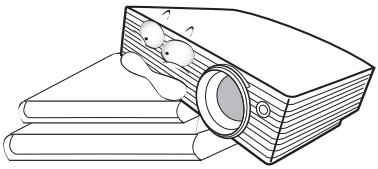


14. 通気孔をふさがないでください。
    - 本製品を毛布などの寝具類、または他の柔らかい物の上に置かないでください。
    - 本製品の上に布などをかぶせないでください。
    - プロジェクタの近くに可燃物を置かないでください。



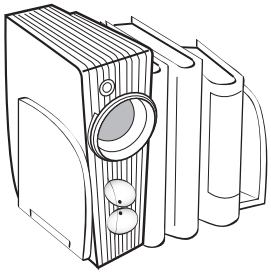
通気孔がふさがれると、プロジェクタの内部が過熱し、火災が発生することがあります。

15. 使用時は必ず装置を水平な平面上に置いてください。
    - 左右の傾きが 40°、または前後の傾きが 35°を超える状態で使用しないでください。完全に水平になっていない状態でプロジェクタを使用すると、ランプが故障したり損傷したりすることがあります。

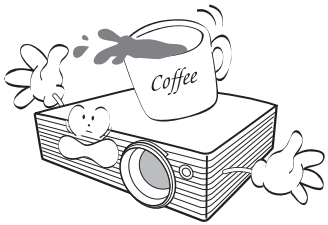


安全上のご注意（続き）

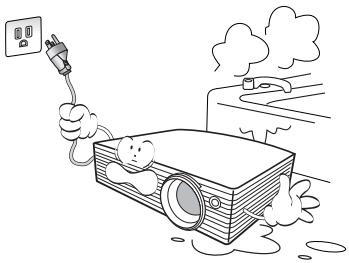
16. 装置を縦向きにしないでください。縦向きにするとプロジェクタが倒れ、けがをしたり、プロジェクタが破損したりする恐れがあります。



17. 装置の上に乗ったり、物を置かないでください。装置が物理的に損傷するだけでなく、事故やけがの原因になります。

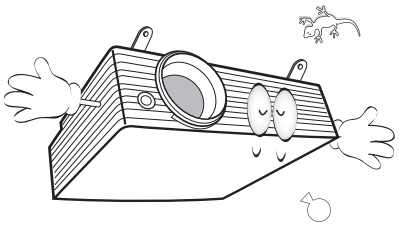


18. プロジェクタの上または近くに液体を置かないでください。プロジェクタ内部に液体がこぼれると故障の原因になります。プロジェクタを濡らした場合は、電源コンセントからプロジェクタを外し、BenQ にご連絡の上プロジェクタの点検をご依頼ください。



19. 本製品を天井に取り付けて、画像を反転投写することができます。

⚠ **天井に取り付ける場合は、BenQ の天井取り付けキットを使用し、しっかりと固定してください。**



プロジェクタの天井取り付け

BenQ プロジェクタを安心してお使いいただくために、ここに記載する注意をよくお読みになり指示にしたがってください。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットをお使いになり、しっかりと確実に設置してください。

BenQ プロジェクタ以外の天井取り付けキットをお使いになると、ゲージやネジの長さが正確でないためプロジェクタが正しく固定されず落下してしまう恐れがあります。

BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットは、BenQ プロジェクタを購入された販売店でお買い求めいただけます。また別途ケンジントンロックをお求めになり、プロジェクタのケンジントンロックスロットと天井取り付けブラケットのベースをセキュリティケーブルでしっかりと繋いでおくことをお薦めします。このようにしておくと、万一天井取り付けブラケットが緩んでしまった場合にも、プロジェクタを補助的に支えることができます。

2. 紹介

プロジェクタの特長

このプロジェクタは高性能な光学エンジン投写技術とユーザーフレンドリーな設計を統合しており、高い信頼性と使いやすさを実現しています。

プロジェクタには次のような特長があります。

- 同時に 2 つの入力ソースを表示できる分割画面と PIP
- パスワード保護機能の選択
- 「オフしてゴー」機能は、プロジェクタの電源を切ってすぐにコンセントから外せる機能です。
- 異なる目的に対応できる最高 9 セットのピクチャモード
- 光学 Signal Shuttle モジュールにより、2 台の PC ソースを同時に表示
- 高品質の手動ズームレンズ
- 最善の画質で表示するワンキー自動調整機能
- 画像の歪みを補正する 2 方向デジタルキーストーン補正
- 画像の歪みを補正するひずみ (ピンクッションおよびバレル) 補正
- PC と AV 装置を接続するための豊富な入力方式
- プロジェクタ設定の不正変更を防ぐパネルキーロック
- データ / ビデオ表示を調整可能なカラーバランスコントロール
- 超高輝度投写ランプ
- 10.7 百万色の表示能力
- 言語を選択できるオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニュー
- 消費電力を節約する標準 / 省電力モードの切り替えが可能
- オーディオ入力接続によりステレオサウンドを実現するスピーカー内蔵
- 高画質なビデオ映像を提供する強力な AV 機能
- コンポーネント HDTV 互換

☞ **• 投写画像の明るさは、周辺光の状態および選択した入力ソースのコントラスト / 輝度設定によって変わります。また投写距離の影響を直接受けます。**

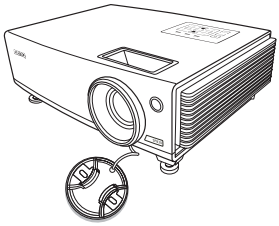
• ランプの明度は時間の経過に伴い暗くなります。また明度はランプ製造元の仕様によって異なります。これは異常ではなく、正常で予期される変化です。

パッケージ内容

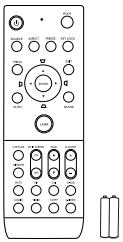
プロジェクタには、PC やビデオ装置への接続に必要なケーブルが同梱されています。丁寧に開梱し、次に示すものがすべて揃っていることを確認してください。不足しているアイテムがある場合は、販売店へお問い合わせください。また最新のアクセサリリストは、www.BenQ.com でご覧いただけます。

標準アクセサリ

同梱のアクセサリ類は日本仕様のものであり、本書の図とは異なる場合があります。



プロジェクタ



リモコンおよび電池
(単 4 タイプ X 2 個)



多言語ユーザーズガイド CD



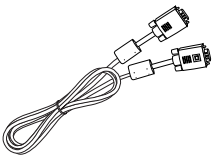
安全のための説明書



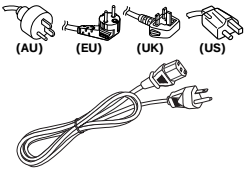
クイックスタートガイド



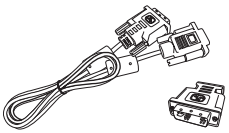
ユーザーズガイド



VGA ケーブル



電源コード



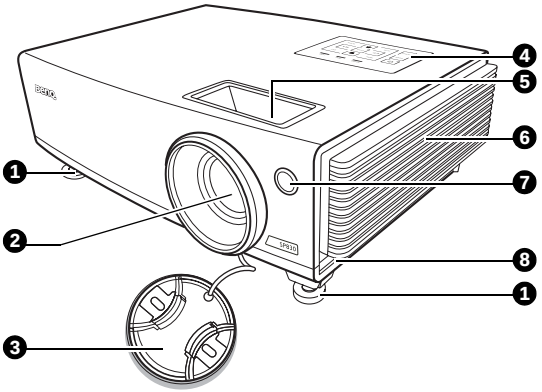
D-Sub-DVI ケーブル
または
DVI-VGA アダプタ

別売りアクセサリ

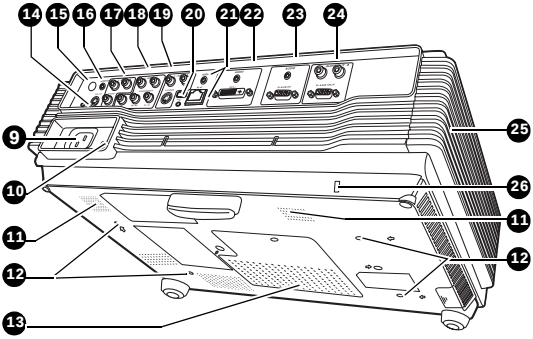
1. Macintosh アダプタ
2. スペアランプキット
3. 天井取り付けキット
4. Presentation Plus
5. RS232 コネクタ
6. Signal shuttle
7. S ビデオケーブル
8. DVI ケーブル
9. USB ケーブル
10. PC オーディオケーブル

プロジェクタ外観ビュー

前面 / 上面



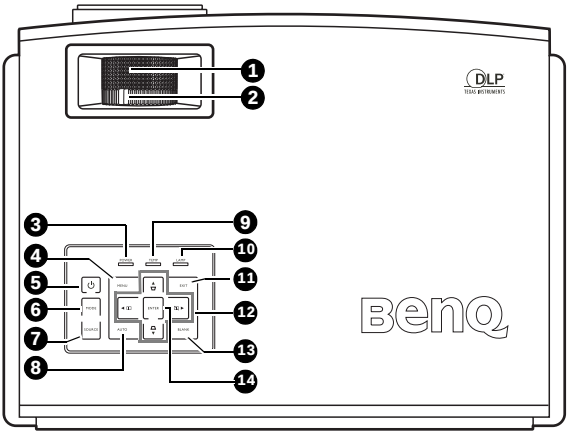
背面 / 底面



1. クイックリリースフット
2. 投写レンズ
3. レンズキャップ
4. 外部コントロールパネル (詳細は、12-13 ページを参照してください。)
5. ピントリングおよびズームリング
6. 通気（冷気取り込み）
7. 前面赤外線リモートセンサー
8. クイックリリースボタン
9. AC 電源コード差し込み口
10. メイン電源スイッチ
11. スピーカーグリル
12. 天井取り付け用の穴
13. ランプカバー
14. RS232 コントロールポート
15. 背面赤外線リモートセンサー
16. コード付きリモコンポート
17. ビデオ / オーディオ (L/R) 入力ソケット
18. コンポーネントビデオ (YPbPr/YCbCr) 信号 / オーディオ (L/R) 入力ソケット
19. S ビデオ / オーディオ (L/R) 入力ソケット
20. USB ソケット
21. RJ-45/ オーディオ入力ソケット (オプションの Signal Shuttle モジュール専用)
22. DVI-I 信号 /PC オーディオ入力ソケット
23. D-Sub (RGB) 信号 /PC オーディオ入力ソケット
24. D-Sub (RGB) 信号 / オーディオ (L/R) 出力ソケット
25. 通気（熱気排出）
26. 盗難防止用ケンジントンロックスロット

制御装置および機能

プロジェクタ



1. **ピントリング**
   投写画像の焦点を調整します。詳細は、37 ページの " 画像サイズと明瞭さの微調整 " を参照してください。
2. **ズームリング**
   画像のサイズを調整します。詳細は、37 ページの " 画像サイズと明瞭さの微調整 " を参照してください。
3. **電源インジケータライト**
   プロジェクタ動作中に点灯または点滅します。詳細は、75 ページの " インジケータ " を参照してください。
4. MENU
   オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。OSD メニューが有効な場合、終了し、メニューの設定を保存します。詳細は、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
5. **電源**
   スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。
   詳細は、31 ページの " プロジェクタの起動 " と 59 ページの " プロジェクタの終了 " を参照してください。
6. MODE
   選択した入力ソースによって、有効な画像設定モードを選択します。詳細は、63 ページの " ピクチャモード " を参照してください。
7. SOURCE
   ソースを選択できるように専用のバーを表示します。詳細は、36 ページの " 入力ソースの切り替え " を参照してください。
8. AUTO
   表示画像に最適な画像タイミングを自動的に決定します。
   詳細は、37 ページの " 画像の自動調整 " を参照してください。
9. **温度警告ライト**
   プロジェクタの温度が異常に高くなると点灯します。詳細は、75 ページの " インジケータ " を参照してください。

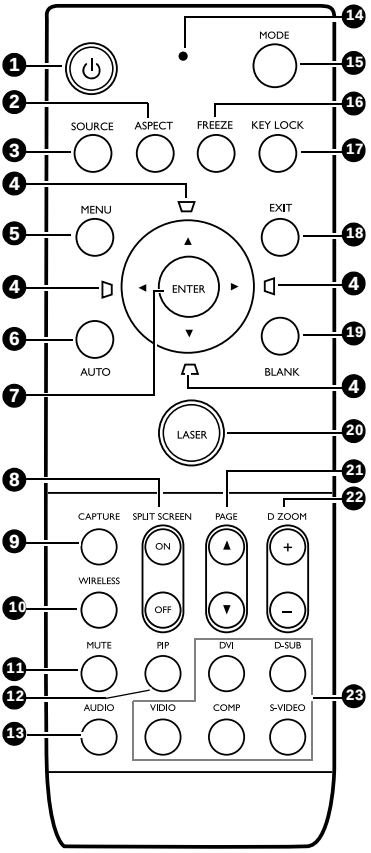
10. **ランプインジケータライト**
ランプの状態を表示します。ランプに問題が発生した場合に点灯します。詳細は、75 ページの " インジケータ " を参照してください。

11. **EXIT**
前の OSD メニューに戻り、メニュー設定を保存して終了します。詳細は、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。

12. **キーストーン / 矢印キー**
(▽/▲、△/▼)
分割画面 / 矢印キー (◁/◀、▷/▶)
投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
分割画面機能をオン / オフにします。
オンスクリーンメニュー (OSD) が有効になった場合、これらのキーを方向指示のキーとして使用し、メニュー項目の選択や調整を行います。
詳細は、38 ページの " 画像の歪みの補正する "、52 ページの " 複数の画像ソースを同時に表示する "、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。

13. **BLANK**
スクリーン画像を隠すために使用します。詳細は、51 ページの " 画像を隠す " を参照してください。

14. **ENTER**
選択したオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューのアイテムを実行します。詳細は、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。



1. **電源**
スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。
詳細は、31 ページの " プロジェクタの起動 " と 59 ページの " プロジェクタの終了 " を参照してください。

2. **ASPECT**
表示縦横比を選択します。詳細は、40 ページの " 縦横比の選択 " を参照してください。

3. **SOURCE**
   ソース選択バーを表示します。詳細は、36 ページの " 入力ソースの切り替え " を参照してください。
4. **キーストーン / 矢印キー (▱ /▲、▱ /◀、▱ /▼、▱ /▶)**
   投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
   オンスクリーンメニュー (OSD) が有効になった場合、これらのキーを方向指示のキーとして使用し、メニュー項目の選択や調整を行います。
   詳細は、38 ページの " 画像の歪みの補正する " と 32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
5. **MENU**
   オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。OSD メニューが有効な場合、終了し、メニューの設定を保存します。詳細は、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
6. **AUTO**
   表示画像に最適な画像タイミングを自動的に決定します。詳細は、37 ページの " 画像の自動調整 " を参照してください。
7. **ENTER**
   選択したオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューのアイテムを実行します。詳細は、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
8. **SPLIT SCREEN (ON/OFF)**
   分割画面機能をオン / オフにします。詳細は、52 ページの " 画像の分割 " を参照してください。
9. **CAPTURE**
   投写画像をキャプチャし、スタートアップスクリーンとして保存します。詳細は、55 ページの " オリジナルのスタートアップ画面を作成する " を参照してください。
10. **WIRELESS**
    (この機能は SP830/S831 では使用できません)
11. **MUTE**
    プロジェクタの音声をオン / オフに切り替えます。
12. **PIP**
    PIP (Picture In Picture) 画面のオン / オフを切り替えます。詳細は、53 ページの "PIP (Picture In Picture) の操作 " を参照してください。
13. **AUDIO**
    オーディオメニューを表示します。詳細は、57 ページの " 音量調整 " を参照してください。
14. **インジケータライト**
    リモコンのキーをどれでも押すと、赤く点滅または点灯します。
15. **MODE**
    選択した入力ソースによって、有効な画像設定モードを選択します。詳細は、43 ページの " ピクチャモードの選択 " を参照してください。
16. **FREEZE**
    FREEZE キーを押すと、画像が一時停止します。詳細は、58 ページの " 画像の静止 " を参照してください。
17. **KEY LOCK**
    LASER と EXIT を除き、プロジェクタおよびリモコンのキーをロックします。詳細は、59 ページの " コントロールキーをロックする " を参照してください。

18. **EXIT**
前の OSD メニューに戻り、メニュー設定を保存して終了します。詳細は、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。

19. **BLANK**
スクリーン画像を隠すために使用します。詳細は、51 ページの " 画像を隠す " を参照してください。

20. **LASER**
プレゼンテーション時にレーザーライトを発します。詳細は、右側の "LASER ポインタの操作 " を参照してください。

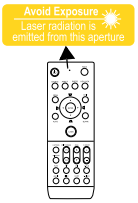
21. **PAGE▲ (上) と PAGE▼ (下)**
Page Up/Down コマンドに応答する（Microsoft PowerPoint など）ディスプレイソフトウェア（PC 上にインストール）を操作することができます。詳細は、58 ページの " リモートからのページ操作 " を参照してください。

22. **DIGITAL ZOOM キー (+、-)**
投写画像のサイズを拡大、縮小します。詳細は、42 ページの " 投写画像の詳細を拡大および表示する " を参照してください。

23. **ソース選択キー (DVI、D-SUB、VIDEO、COMP.、S-VIDEO)**
表示したい入力ソースを選択します。詳細は、36 ページの " 入力ソースの切り替え " を参照してください。

DVI は DVI-D 信号だけを選択します。

LASER ポインタの操作



LASER ポインタは発表者がプレゼンテーションを行うときに使用するものです。ポインタを押すと赤い光線が発光し、インジケータも赤く点灯します。

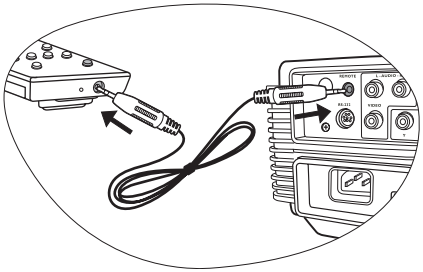
レーザー光線は目に見えるものです。レーザー光線を続けて放射するには LASER キーを押し続ける必要があります。

⚠ **絶対にレーザー光線ウィンドウを覗いたり、光線を人の目に向けて当てないでください。ご使用になる前に、リモコンの背面に記載されている注意と、同梱の「ユーザー情報」を良くお読みください。**

レーザーポインタはおもちゃではありません。レーザーポインタはお子様の手の届かない場所に保管しておいてください。

リモコンにコードを付けて使う

リモコンの上部には、2.5mm ミニジャックケーブル (家電製品店でご購入いただけます) を使ってプロジェクタと接続するためのジャックがあります。リモコンにコードを付けておくと、プロジェクタに接続されているため必要なときに簡単に探し出すことができます。

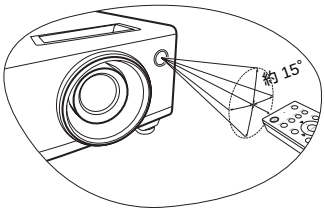


リモコンの有効範囲

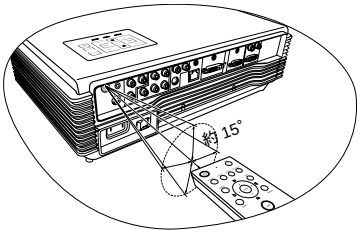
赤外線（IR）リモコンセンサは、プロジェクタの前面と背面にあります。リモコンを正しく機能させるには、プロジェクタの IR リモコンセンサに対して 30 度以内でリモコンを使用する必要があります。リモコンとセンサの間の距離は、6 メートル（20 フィート）を超えないようにしてください。

リモコンとプロジェクタの間に赤外線を遮断する障害物がないかどうかを確認します。

- 正面からの操作

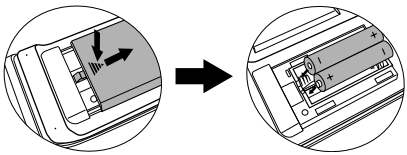


- 背面からの操作



リモコンに電池を装着する

1. バッテリーカバーを開くには、リモコンを裏返してカバーの溝を押し、矢印の方向にスライドさせてください。するとカバーが外れます。
2. すでに挿入されている電池を取り出し（電池がある場合）、極性に注意しながら単４電池２個を挿入してください。プラス極（+）はプラスに、マイナス極（-）はマイナスの方向に挿入してください。
3. カバーをスライドさせて元の状態に戻します。カチッという音がしたらカバーがしっかりと締まったことを意味しています。



⚠ リモコンや電池は台所、浴室、サウナ、サンルーム、車内など高温多湿の場所に放置しないでください。

使用済みの電池は、同じタイプの電池か、メーカーが推奨する同等タイプの電池と交換してください。

また、使用済みの電池はメーカーの指示および地域の環境規定にしたがって処分してください。

電池は絶対に火に投げ込まないでください。爆発する恐れがあり大変危険です。

電池が消耗したり、長時間リモコンを使用しない場合は、液体が漏れないようにリモコンから電池を外してください。

3. 設置

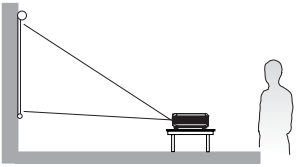
場所の選択

部屋のレイアウトやお好みで、どの設定で設置するか決めてください。設置する際は、スクリーンのサイズや位置、電源コンセントがある場所、プロジェクタとその他の装置の距離や位置などを考慮してください。

本機は次の 4 通りの設置状態で使うことができます。

1. 床面前面

プロジェクタをスクリーンの正面に床面近くに設置します。これが最も一般的な設定です。

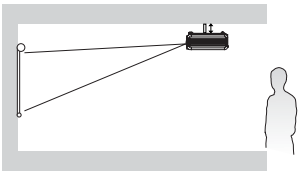


2. 天井前面

プロジェクタを上下逆さにスクリーン正面の天井に取り付けます。

この方法で設置する場合は、BenQ プロジェクタ天井取り付けキットをご購入ください。

* プロジェクタの電源を入れてから、**天井前面**を設定してください。

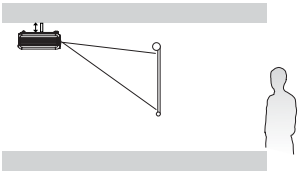


3. 天井背面

プロジェクタを上下逆さにスクリーン背面の天井に取り付けます。

専用の背面投写スクリーンと BenQ プロジェクタ天井取り付けキットが必要です。

* プロジェクタの電源を入れてから、**天井背面**を設定してください。

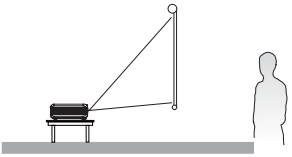


4. 床面背面

プロジェクタをスクリーン背面、床面近くに設置します。

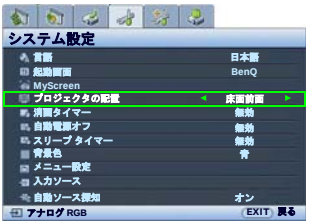
専用の背面スクリーン投写が必要です。

* プロジェクタの電源を入れてから、**床面背面**を設定してください。



*** プロジェクタの位置を設定するには：**

1. **プロジェクタかリモコンで MENU 押して、システム設定メニューが選択されるまで ◀/▶ を押し続けてください。**
2. **▲/▼を押してプロジェクタの配置を選択し、位置が選択されるまで◀/▶を押し続けてください。**



投写画像サイズの調整

投写距離、ズーム設定、ビデオフォーマットにより投写画面サイズは変化します。

プロジェクタは必ず机の上などに水平に配置し、スクリーンの水平方向の中央に対して直角になるように設置してください。このように設置することによって、角度を付けて投写（または角度が付いた面に投写する場合）すると生じる画像の歪みを防止することができます。

新しいデジタルプロジェクタはまっすぐに画像を投写しません（例：古いリール - トゥ - リール式のフィルムのプロジェクタ）。代わりに、デジタルプロジェクタはプロジェクタの水平面に対し、やや上向きに角度を付けて投写します。これは机の上に配置したとき、スクリーンの下端が机のレベルよりも上になるよう（また室内の全員がスクリーンをはっきりと見えるように）にするためです。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、プロジェクタがやや下向きに角度を付けて投写するように上下逆さまに取り付ける必要があります。

20 ページの図をご覧になるとお分かりいただけるように、このタイプの投写方法では投写画像の下端がプロジェクタの水平面から縦に傾いてしまいます。天井に取り付けた場合は、投写画像の上端がこのようになります。

プロジェクタをスクリーンから遠ざけると、投写画像のサイズが拡大され、それに伴い縦のオフセットも広がります。

スクリーンとプロジェクタの距離を決定する際は、投写距離に直接比例する投写画像のサイズと縦オフセットのサイズも考慮する必要があります。

プロジェクタを設置するための適度な距離については、縦横比 16:9 と 4:3 のスクリーンサイズの表をご参照ください。設置場所を決定するときには、スクリーン中央に対し直角の水平距離（投写距離）と、スクリーンの上下端からのプロジェクタの縦オフセットの高さ（オフセット）の 2 つのサイズを考慮してください。

使用するスクリーンサイズに対しプロジェクタの設置場所を決定する

1. スクリーンの縦横比が 16:9 か 4:3 のどちらであるか決定します。16:9 スクリーンをお使いになる場合は、表 A を参照してください。4:3 スクリーンをお使いになる場合は、投写画像の縦横比によって表 B1 か表 B2 を参照してください。
2. スクリーンサイズを選択します。
3. 表を参考にして、左側の " スクリーンサイズ " という欄から使用したいスクリーンサイズに最も近いものを探してください。この値の列を右に見ていくと、" 平均 " という欄に相当するスクリーンからの平均距離が記載されています。これが投写距離になります。
4. 同じ列を右に見ていくと、" 縦オフセット " 値が記載されています。この値によって、スクリーンの端からの最終的な縦オフセット位置が決定されます。
5. プロジェクタはスクリーンの水平方向の中心に対して直角に、前のステップ 3 で決定したスクリーンからの距離に、さらにステップ 4 で決定したオフセット値で設置するよう推奨します。

例えば、120 インチ、縦横比 4:3 のスクリーンを使用し、投写画像が 15:9 のときには、表 B2 を参照します。平均投写距離は 4133.7mm であり、縦オフセットは 146mm となります。

設置する距離に対し推奨するスクリーンサイズを決定する

これは、プロジェクタを設置する部屋に合ったスクリーンサイズを求めるための方法です。

最大スクリーンサイズは、使用する部屋の実際のスペースが上限となります。

1. スクリーンの縦横比が 16:9 か 4:3 のどちらであるかを決定します。16:9 スクリーンをお使いになる場合は、表 A を参照してください。4:3 スクリーンをお使いになる場合は、投写画像の縦横比によって表 B1 か表 B2 を参照してください
2. プロジェクタとスクリーンを設置したい場所までの距離を測ってください。これが投写距離になります。
3. 表を参考にして、" 平均 " という欄からスクリーンからの平均距離に最も近い値を探してください。測定した距離が最小距離と最大距離（平均距離値の両側に表示されています）の間にあることを確認してください。
4. この値と同じ列を左へ見ていくと、相当する " スクリーンサイズ " を見つけることができます。これがその投写距離で推奨されるスクリーンサイズになります。
5. 同じ列を右に見ていくと、" 縦オフセット " 値が記載されています。この値によって、プロジェクタの水平面を基にした最終的なスクリーン設置場所が決定されます。

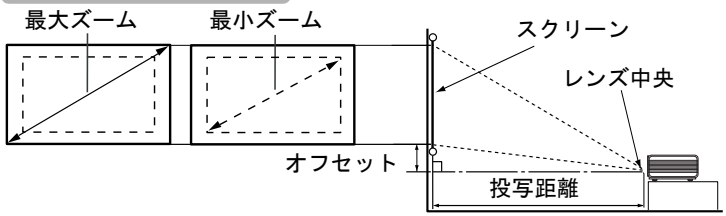
例えば、16:9 画像を投写ために 16:9 スクリーンが必要であり、測定した投写距離が 4.8 メートル (4800mm) であった場合は、表 A を参照してください。" 平均 " 欄で最も近い値は 4508mm です。同じ列を見ると、120 インチ (3.0 メートル) が必要なスクリーンであることが分かります。

投写サイズ

適切な位置を計算する前に、80 ページの " 外形寸法 " を参照して、このプロジェクタのレンズサイズの中心を求めてください。

スクリーンの縦横比が 16:9 であり、投写画像が 16:9 の場合

床取り付け



天井取り付け

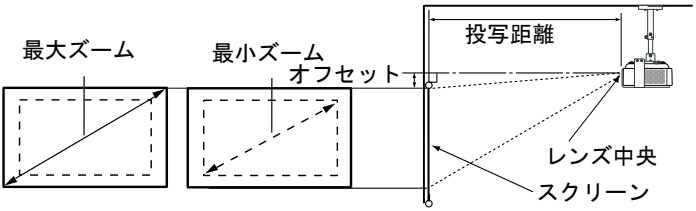


表 A：スクリーンの縦横比が 16:9 であり、投写画像が 16:9 の場合

スクリーンサイズ					スクリーンからの距離（mm）			縦オフセット
対角			高さ	幅	最短距離（最大ズームにて）	平均	最長距離（最小ズームにて）	mm
フィート	インチ	mm	mm	mm				
2.5	30	762	457	610	1043	1127	1210	46
4.2	50	1270	762	1016	1739	1878	2017	76
6.7	80	2032	1219	1626	2783	3005	3228	122
8.3	100	2540	1524	2032	3478	3757	4035	152
10.0	120	3048	1829	2438	4174	4508	4842	183
12.5	150	3810	2286	3048	5217	5635	6052	229
15.0	180	4572	2743	3658	6261	6762	7263	274
16.7	200	5080	3048	4064	6957	7513	8070	305
18.3	220	5588	3353	4470	7652	8264	8877	335
20.0	240	6096	3658	4877	8348	9016	9683	366
22.5	270	6858	4115	5486	9391	10143	10894	411
25.0	300	7620	4572	6096	10435	11270	12104	457

スクリーンの縦横比が 4:3 であり、投写画像が 16:9 か 15:9 の場合

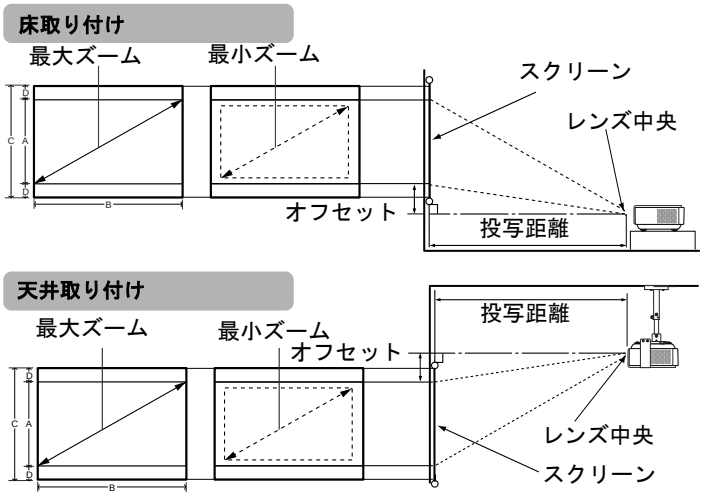


表 B1：スクリーンの縦横比が 4:3 であり、投写画像が 16:9 の場合

スクリーンサイズ					投写画像サイズ		黒いバー (D)	スクリーンからの距離（mm）			縦オフセット
対角			高さ C	幅 B	高さ A	幅 B		最低（最大ズームにて）	平均	最大（最小ズームにて）	
フィート	インチ	mm	cm	cm	cm	cm	cm				mm
2.5	30	762	46	61	34	61	5.7	956.9	1033.4	1110.0	38
4.2	50	1270	76	102	57	102	9.5	1594.8	1722.4	1850.0	63
6.7	80	2032	122	163	91	163	15.2	2551.7	2755.8	2959.9	101
8.3	100	2540	152	203	114	203	19.1	3189.6	3444.7	3699.9	126
10.0	120	3048	183	244	137	244	22.9	3827.5	4133.7	4439.9	151
12.5	150	3810	229	305	171	305	28.6	4784.4	5167.1	5549.9	189
15.0	180	4572	274	366	206	366	34.3	5741.2	6200.5	6659.8	226
16.7	200	5080	305	406	229	406	38.1	6379.2	6889.5	7399.8	251
18.3	220	5588	335	447	251	447	41.9	7017.1	7578.4	8139.8	277
20.0	240	6096	366	488	274	488	45.7	7655.0	8267.4	8879.8	302
22.5	270	6858	411	549	309	549	51.4	8611.9	9300.8	9989.8	339
25.0	300	7620	457	610	343	610	57.2	9568.7	10334.2	11099.7	377

表 B2：スクリーンの縦横比が 4:3 であり、投写画像が 15:9 の場合

スクリーンサイズ					投写画像サイズ		黒いバー (D)	スクリーンからの距離 (mm)			縦オフセット
対角			高さ C	幅 B	高さ A	幅 B		最低（最大ズームにて）	平均	最大（最小ズームにて）	
フィート	インチ	mm	cm	cm	cm	cm	cm				mm
2.5	30	762	46	61	37	61	4.6	956.9	1033.4	1110.0	37
4.2	50	1270	76	102	61	102	7.6	1594.8	1722.4	1850.0	61
6.7	80	2032	122	163	98	163	12.2	2551.7	2755.8	2959.9	98
8.3	100	2540	152	203	122	203	15.2	3189.6	3444.7	3699.9	122
10.0	120	3048	183	244	146	244	18.3	3827.5	4133.7	4439.9	146
12.5	150	3810	229	305	183	305	22.9	4784.4	5167.1	5549.9	183
15.0	180	4572	274	366	219	366	27.4	5741.2	6200.5	6659.8	219
16.7	200	5080	305	406	244	406	30.5	6379.2	6889.5	7399.8	244
18.3	220	5588	335	447	268	447	33.5	7017.1	7578.4	8139.8	268
20.0	240	6096	366	488	293	488	36.6	7655.0	8267.4	8879.8	293
22.5	270	6858	411	549	329	549	41.1	8611.9	9300.8	9989.8	329
25.0	300	7620	457	610	366	610	45.7	9568.7	10334.2	11099.7	366

光学部品の偏差のため、表 A、表 B1、表 B2 の数値には 3% の公差があります。プロジェクタを一定場所に固定する予定であれば、設置を行う前に実際にプロジェクタを使って投写サイズと距離を測っておかれるようお薦めします。このように準備しておくことによって、プロジェクタを最適な位置に固定することができます。

プロジェクタを別の場所に移動させると（推奨される範囲内で）、スクリーンの中央に画像が表示されるようにプロジェクタを上下、あるいは左右にやや傾ける必要があります。そうすると、画像に歪みが生じる場合があります。ゆがみを補正する方法については、38 ページの " 画像の歪みの補正する " を参照してください。

4. 接続

信号ソースをプロジェクタに接続する際には、次の点を確認してください。

1. 接続を行う前にすべての機器の電源をオフにします。
2. 各ソースに正しい信号ケーブルを使用します。
3. ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認します。

下に示す接続図では、プロジェクタにケーブルは接続されていません（詳細は、10 ページの " パッケージ内容 " を参照してください）。ケーブルはお近くの電気店でお求めください。

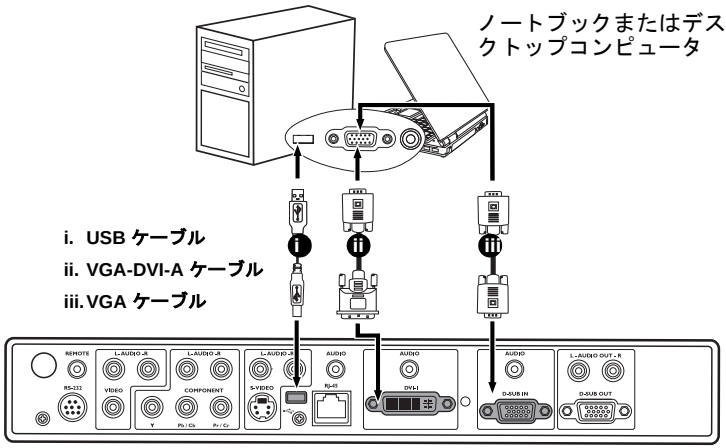
コンピュータの接続

このプロジェクタには VGA 入力ソケットと DVI 入力ソケットが用意されており、IBM® 互換機と Macintosh® 機の両方に接続することができます。Macintosh コンピュータに接続するには、Mac アダプタ（別売のアクセサリ）が必要です。

プロジェクタと PC を接続するには（VGA ケーブルか VGA-DVI - A ケーブルを使用）：

• VGA ケーブルを使用した場合：	• VGA-DVI - A ケーブルを使用した場合：
1. 付属の VGA ケーブルをコンピュータの D-Sub 出力ソケットに接続します。 2. VGA ケーブルのもう片端をプロジェクタの **D-SUB IN** 信号入力ソケットに差し込んでください。	1. VGA-DVI - A ケーブルの VGA 側をコンピュータの D-Sub 出力ソケットに接続します。 2. VGA-DVI-A ケーブル DVI をプロジェクタの **DVI-I** 信号入力ソケットに差し込んでください。
3. ページ操作をリモートで行うには（詳細は、58 ページの " リモートからのページ操作 " を参照してください）、USB ケーブルでコンピュータの USB ポートとプロジェクタの USB ソケットを接続してください。	

最終的には、下の図のような接続状態になります。



☞ **多くのノートブックでは、プロジェクタを接続すると外付けビデオポートはオンになりません。通常は「FN」+「F3」や CRT/LCD の組み合わせによって、外付けディスプレイをオン / オフにすることができます。CRT/LCD 機能キーまたは、ノートブック上でモニタ記号が示された機能キーの場所を確認します。「FN」とその機能キーを同時に押します。ノートブックのキーの組み合わせについては、ノートブックの説明書をお読みください。**

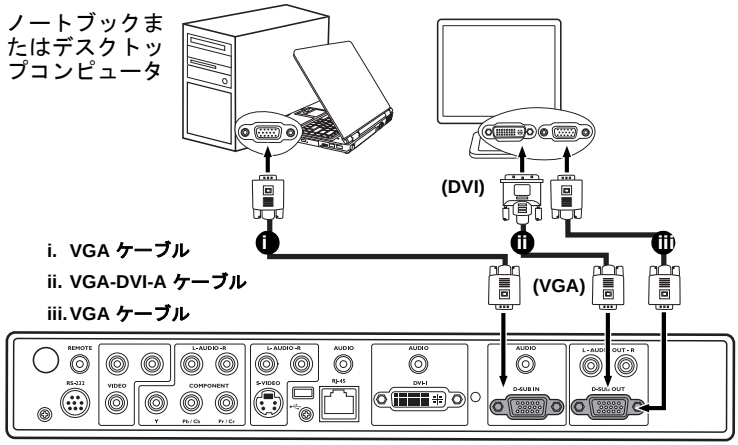
モニタの接続

ご自分のプレゼンテーションをスクリーンだけでなく、モニタにも表示して近くで画面を確認したい場合、下の図に示す通りプロジェクタを外付けモニタに接続することができます。

プロジェクタとモニタを接続するには（VGA ケーブルか VGA-DVI - A ケーブルを使用）：

• VGA ケーブルを使用した場合：	• VGA-DVI - A ケーブルを使用した場合： **注意：使用するモニタに DVI 入力ソケットが付いていなければなりません。**
1. プロジェクタとコンピュータを 23 ページの " コンピュータの接続 " の手順にしたがって接続してください。 **D-SUB OUT** 出力は、プロジェクタに正しく D-Sub 入力信号が送られなければ機能しません。プロジェクタが **DVI-I** ソケットではなく、**D-SUB IN** ソケットでコンピュータに接続されていることを確認してください。	
2. 適切な VGA ケーブル（本製品に同梱されているもの）を使ってビデオモニタの D-Sub 入力ソケットに挿入します。 3. ケーブルのもう片端をプロジェクタの **D-SUB OUT** ソケットに差し込んでください。	2. VGA-DVI - A ケーブルの DVI 側をビデオモニタの DVI 入力ソケットに繋ぎます。 3. ケーブルの VGA 側をプロジェクタの **D-SUB OUT** ソケットに差し込んでください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



ビデオ機器との接続

このセクションでは、ビデオケーブルを使ってプロジェクタとビデオソース装置を接続する方法を説明します。ビデオプレゼンテーションを行う場合は、ビデオケーブル接続をお薦めします。

本プロジェクタは次の出力ソケットのいずれかを備えたビデオ機器と接続することができます。

- DVI
- コンポーネントビデオ
- S ビデオ
- ビデオ（コンポジット）

接続方法は、プロジェクタとビデオソース装置の両方に搭載されている端末に合ったものを選択してください。

最高のビデオ品質

最も適切なビデオ接続方式は DVI です。ソース装置に DVI ソケットが装備されている場合は、使用できる DVI コネクタの種類によって、デジタル品質または高品質なアナログビデオ品質をお楽しみいただくことができます。

プロジェクタを DVI ソースに接続する方法と、その他の説明については、26 ページの "DVI ソース装置の接続 " を参照してください。

DVI ソースが使用できない場合は、その次に品質の高いビデオ信号はコンポーネントビデオ (「コンポジットビデオ」ではありません) になります。デジタル TV チューナーや DVD プレーヤーはコンポーネントビデオを出力しますので、S ビデオや（コンポジット）ビデオには使用できるならばこの方法で接続してください。

プロジェクタとコンポーネントビデオ装置の接続方法については、27 ページの " コンポーネントビデオソース装置の接続 " を参照してください。

良好なビデオ品質

S ビデオは標準のコンポジットビデオよりも品質が良いアナログビデオを再現します。ビデオソース装置にコンポジットビデオと S ビデオの両出力端末が付いている場合は、S ビデオを選択してください。

プロジェクタと S ビデオ装置の接続方法については、28 ページの "S ビデオまたはコンポジットビデオソース装置の接続 " を参照してください。

標準ビデオ品質

コンポジットビデオはアナログビデオであり、見るだけなら十分です。ただしプロジェクタから投写される結果は最適値以下であり、ここで記載した方法の中では最も品質が低い方法です。

プロジェクタとコンポジットビデオ装置の接続方法については、28 ページの "S ビデオまたはコンポジットビデオソース装置の接続 " を参照してください。

DVI ソース装置の接続

このプロジェクタには DVD プレーヤーなどの DVI ソース装置や、PC などの VGA 出力装置などと接続できるように、DVI-I 入力ソケットが用意されています。

DVI コネクタには 3 種類あります。DVI-A、DVI-D、DVI-I です。DVI-I ソケットは次の両フォーマットに対応する統合されたコネクタです。DVI-A と DVI-D。

DVI-A フォーマットは DVI 信号をアナログ (VGA) ディスプレイに表示 (またはその逆) するときに使用します。信号変換により画質が劣化する場合がありますが、標準の VGA 接続よりも高画質の画像を提供します。

DVI-D フォーマットはデジタル信号を変換せずにデジタルディスプレイに表示するときに使用します。純粋なデジタル接続の場合は、デジタルフォーマットの特性によりアナログ接続よりも高速かつ高画質な画像を実現します。

DVI-A と DVI-D フォーマットは互換性がありません。DVI-A フォーマットのコネクタを DVI-D 装置に接続したり、その逆を行ったりすることはできません。ケーブルを購入される前に、装置が使用するフォーマットの種類をご確認ください。あるいは、あらゆるタイプの DVI 接続で便利な DVI-I ケーブルをご購入ください。

ソース装置に未使用の DVI または VGA (D-Sub) 出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

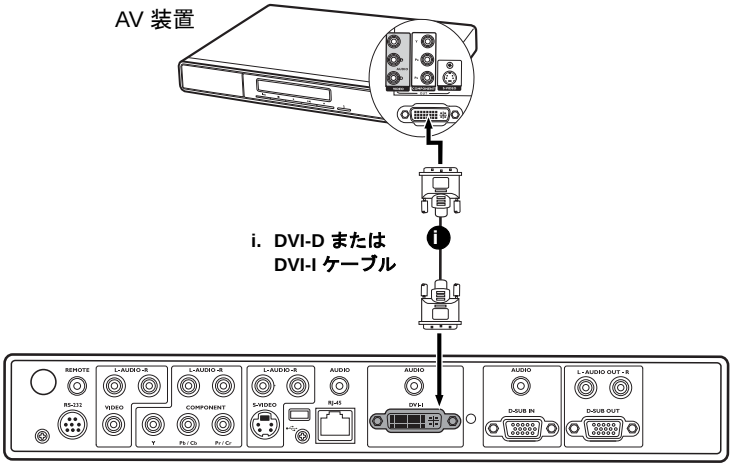
- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタを DVI ソース装置やコンピュータに接続するには :

DVI ソース装置を VGA-DVI-A ケーブルを使ってコンピュータに接続する方法については、23 ページの " コンピュータの接続 " を参照してください。

1. DVI (DVI-D または DVI-I) ケーブルを DVI ソース装置の DVI 出力ソケットに接続します。
2. ケーブルのもう片端をプロジェクタの **DVI-I** 信号入力ソケットに差し込んでください。

   最終的には、下の図のような接続状態になります。



コンポーネントビデオソース装置の接続

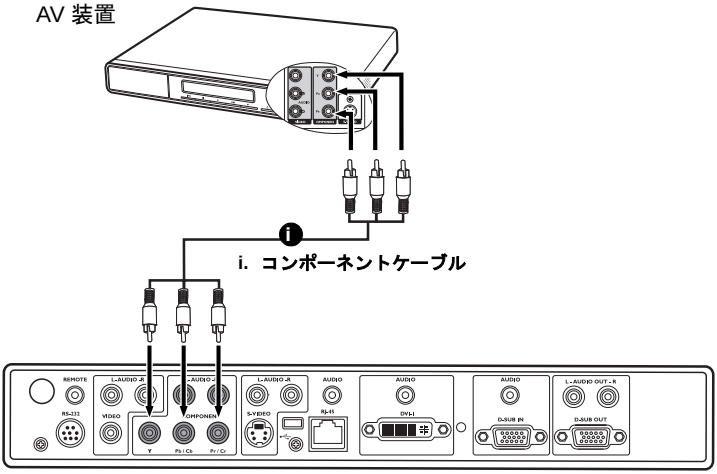
ビデオソース装置に未使用のコンポーネントビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタをコンポーネントビデオケーブルを介してコンポ - ネントビデオソース装置に接続するには：

1. コンポーネントビデオケーブルをビデオソース装置のコンポーネントビデオ出力ソケットに差し込んでください。プラグの色とソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。
2. コンポーネントビデオケーブルの片端をプロジェクタの COMPONENT ソケット (Y、Pb/Cb、Pr/Cr) に差し込んでください。プラグの色とソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



- **ネイティブ 16:9 ピクチャを表示できるビデオ入力は、コンポーネントビデオだけです。**
- **電源をオンにしても選択したビデオ映像が表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**

S ビデオまたはコンポジットビデオソース装置の接続

ビデオソース装置に未使用の S ビデオまたはビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

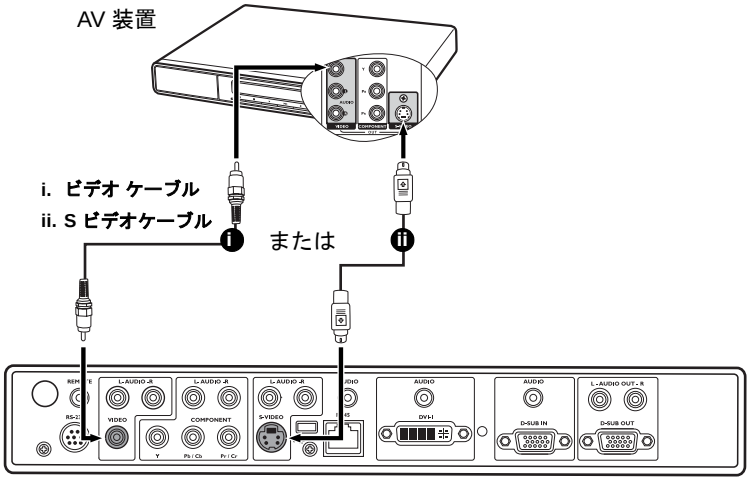
- 両方のソケットがある場合は、S ビデオ端末を使用した方がビデオ端末を使用した場合よりも画質が高くなるため、S ビデオ出力ソケットに接続してください。詳細は、25 ページの " ビデオ機器との接続 " を参照してください。
- どちらかの出力ソケットしかない場合も、この手順を続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

コンポーネントビデオ接続方式によりプロジェクタとビデオソース装置をすでに接続してある場合は、S ビデオまたはコンポジットビデオ接続方式でこの装置を接続すると不要に 2 つ目の接続が生じ、画質が悪くなるため、この装置を接続する必要はありません。コンポーネントビデオと S ビデオの両方がビデオソース装置にない場合 (アナログビデオカメラなど) に限り、コンポジットビデオ接続を行う必要があります。

プロジェクタを S ビデオ / ビデオソース装置に接続するには :

1. S ビデオケーブル / ビデオケーブルをビデオソース装置の S ビデオ / ビデオ出力ソケットに差し込んでください。
2. S ビデオケーブル / ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタの S-VIDEO/ VIDEO ソケットに差し込んでください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



- **電源をオンにしても選択したビデオ映像が表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**

オーディオ装置の接続

このプロジェクタにはビジネス用途に限り使用できる、データプレゼンテーションに備わった基本的な音声機能を再生できるようにスピーカーが内蔵されています。このスピーカーはホームシアターやホームシネマなどに求められるオーディオを再生するために設計されたものではありません。

必要であれば、プレゼンテーションではプロジェクタのスピーカーを使用し、プロジェクタの AUDIO OUT (L/R) ソケットに別途アンプスピーカーを接続することもできます。

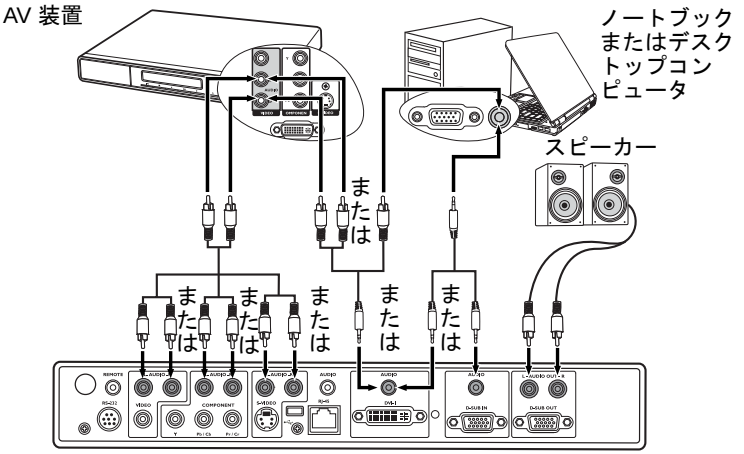
別にサウンドシステムを使用できる場合は、ビデオソース装置のオーディオ出力とサウンドシステムを接続するとよいでしょう。

次の図に示すオーディオ接続図は参照としてのみ記載しています。別のサウンドシステムを使用できる場合、またはオーディオが必要でない場合は、プロジェクタにオーディオを接続する必要はありません。

1. プレゼンテーションでプロジェクタのスピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをコンピュータまたはビデオ装置のオーディオ出力ソケットとプロジェクタの信号ソケットに相当するオーディオソケットに接続してください。
   使用すべきオーディオケーブルは、装置により異なります。
   コンピュータや DVI 装置を D-SUB IN、DVI-I、RJ-45 などのソケットに接続している場合は、ステレオミニジャックケーブルをお使いください。
   コンピュータや DVI 装置を COMPONENT、VIDEO、S-VIDEO などのソケットに接続している場合は、RCA 式ケーブルをお使いください。
2. 別のアンプスピーカーを接続したい場合は、別の適切なオーディオケーブルを使って 2 つの RCA タイプコネクタをプロジェクタの AUDIO OUT (L/R) ソケットに接続し、もう片方を外付けスピーカー (本製品には付いていません) に接続してください。プラグの色とソケットの色を合わせてください（白は白と、赤は赤と）。

   AUDIO OUT (L/R) 出力は、プロジェクタにオーディオ入力が接続されていなければ使用できません。

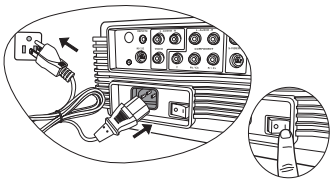
接続が完了したら、リモコン (**MUTE**、**AUDIO**) やプロジェクタの OSD メニューを使ってオーディオ操作することができます。詳細は、57 ページの " 音量調整 " を参照してください。



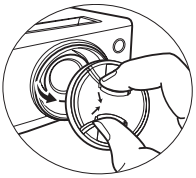
5. 操作

プロジェクタの起動

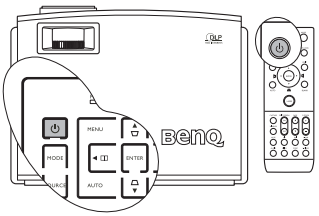
1. 電源コードをプロジェクタとコンセントに差し込みます。コンセントのスイッチをオンにします（該当する場合）。
2. メイン電源スイッチを **I** の位置に設定します。電源を入れると、**電源インジケータ**がオレンジ色になります。



3. レンズキャップを取り外します。
キャップを付けたままにしておくと、プロジェクタのランプから発生する熱によりキャップが変形してしまいます。



4. プロジェクタまたはリモコンの ⏻ キーを 2 秒間押し続けてプロジェクタを起動します。
電源インジケータライトが緑色に点滅し、電源がオンになると、緑色のまま点灯します。
起動処理には約 30 秒かかります。⏻ 起動処理の後半に、デフォルトの BenQ ロゴが表示されます。
必要であれば、ピントリングを使って画像の鮮明さを調整してください。



プロジェクタが前回の動作を終えた後まだ余熱を帯びている場合は、ランプをスタートアップする前に約 90 秒間冷却ファンが作動します。

5. パスワードの入力を求められた場合は、矢印キーを使って 6 桁のパスワードを入力してください。

詳細は、33 ページの " パスワード機能の使い方 " を参照してください。

6. 接続されているすべての機器の電源をオンにします。
プロジェクタは入力ソースの検索を開始します。スキャンされている入力ソースがスクリーン右下隅に表示されます。プロジェクタが有効な信号を検出しない場合は、入力ソース信号が検出されるまで検出中のメッセージが表示され続けます。
プロジェクタやリモコンの SOURCE を押して信号選択バーを表示し、別の信号に切り替えることもできます。詳細は、36 ページの " 入力ソースの切り替え " を参照してください。

入力ソースの周波数 / 解像度がプロジェクタの動作範囲を超えた場合、「対応範囲外」というメッセージが消画スクリーンに表示されます。入力ソースをプロジェクタの解像度と互換性があるものに変更するか、入力ソースの設定を低くしてください。詳細は、79 ページの " タイミングチャート " を参照してください。

メニューの使用方法

プロジェクタは、多国語対応のオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューを備えており、各種の調整や設定が行えます。

以下に OSD メニューの概要を紹介します。

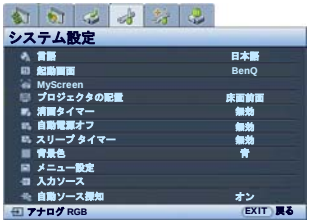


OSD メニューを使用するには、まず OSD メニューの言語を選択してください。

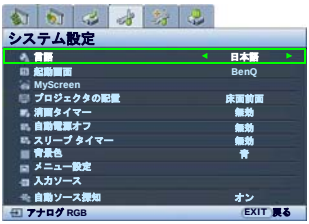
1. プロジェクタかリモコンの **MENU** を押して、OSD メニューをオンにします。



2. ◀ /▶ を使って**システム設定**メニューを選択します。



3. ▼ を押して**言語**を選択し、その後で ◀ /▶ を押して言語を選択します。



4. プロジェクタかリモコンの **MENU** を 1 回押すか、**EXIT** を 2 回押して *、設定を保存し、終了します。

***1 回目にはメインメニューに戻り、2 回目に OSD メニューが閉じます。**

プロジェクタの保護

セキュリティケーブルロックの使い方

盗難防止のために、プロジェクタは安全な場所に設置してください。あるいはケンジントンロックなどのロックを購入し、プロジェクタを保護してください。ケンジントンロックスロットはプロジェクタの背面にあります。詳細は、11 ページのアイテム 26 をご覧ください。

ケンジントンケーブルロックは通常キーとロックを組み合わせたものです。ご使用方法については、ロックの説明書を参照してください。

パスワード機能の使い方

セキュリティのため、および許可されていないユーザーがプロジェクタを勝手に使用できないように、このプロジェクタにはパスワードを設定することができます。パスワードはオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューで設定します。パスワードを設定し、この機能を選択すると、プロジェクタはパスワードで保護された状態になります。正しいパスワードを知らないユーザーはプロジェクタを操作することができません。

⚠ **パスワード機能を有効にしたにも関わらず、パスワードを忘れてしまうと面倒なことになります。（必要であれば）本書を印刷し、設定したパスワードを本書に書き留めておき、安全な場所に保管しておいてください。**

パスワードの設定

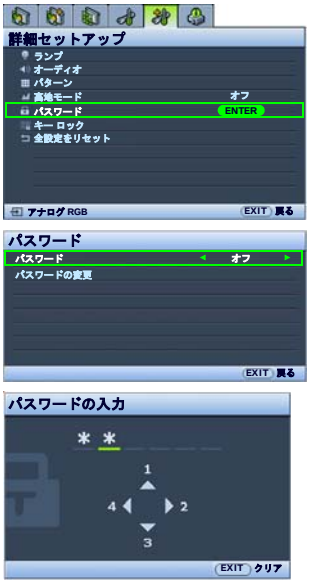
☞ **一度パスワードを設定して有効にすると、プロジェクタを起動するたびに正しいパスワードを入力しなければプロジェクタを使用することはできなくなります。**

1. プロジェクタかリモコンで MENU 押して、**詳細セットアップ**メニューが選択されるまで ◀/▶ を押し続けてください。
2. ▼ を押して、**パスワード**を選択し、次に ENTER を押してください。すると**パスワード**ページが表示されます。
3. **パスワード**を選択し、◀/▶ を押して、**オン**を選択してください。すると**パスワードの入力**ページが表示されます。
4. 図に示す通り、4 つの矢印キー (▲、▶、▼、◀) はそれぞれ 4 つの数字 (1、2、3、4) を示しています。リモコンかプロジェクタの矢印キーを使って、6 桁のパスワードを設定してください。

   パスワードが設定されると、OSD メニューは**パスワード**ページに戻ります。

   重要：入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。本書の下の欄に設定したパスワードを書き留めておいてください。

   パスワード： _ _ _ _ _ _
   本書は安全な場所に保管しておいてください。



5. OSD メニューを終了するには、MENU を押します。

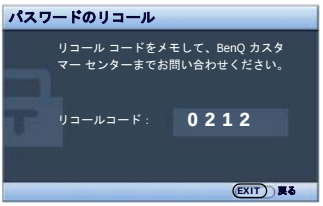
パスワードを忘れた場合



パスワード機能が有効になっているときには、プロジェクタを起動すると毎回 6 桁のパスワードを入力するよう要求されます。間違ったパスワードを入力すると、右図のようなエラーメッセージが 3 秒間表示され、その後**パスワードの入力**ページに入ります。別の 6 桁のパスワード上を押してもう一度やり直してください。またはパスワード忘れてしまい、さらに本書にパスワードを記録しておかなかった場合は、パスワードの呼び戻し手続きを行ってください。詳細は、34 ページの " パスワードの呼び戻しを行うには " を参照してください。

パスワード入力を続けて 5 回間違えると、プロジェクタは間もなく自動的にシャットダウンします。

パスワードの呼び戻しを行うには



1. プロジェクタかリモコンの **MODE** を 3 秒間押します。スクリーン上にコード化された番号が表示されます。
2. 番号を書き留めて、プロジェクタをオフにしてください。
3. 番号をデコードするには、お近くの BenQ サービスセンターにお問い合わせください。お客様がこのプロジェクタを使用できる正当なユーザーであることを確認するために、購入を証明する文書の提示を求められる場合があります。

パスワードの変更

1. プロジェクタかリモコンで **MENU** 押して、**詳細セットアップ**メニューが選択されるまで ◀/▶ を押し続けてください。
2. ▲/▼ を押して、**パスワード**を選択し、次に **ENTER** を押してください。すると**パスワード**ページが表示されます。
3. **パスワードの変更**を選択し、**ENTER** を押します。すると**現在のパスワードの入力**ページが表示されます。
4. 古いパスワードを入力してください。
   - パスワードが正しく入力されると、「**新しいパスワードの入力**」というメッセージが表示されます。
   - パスワードが間違っていれば、パスワードエラーメッセージが 3 秒間表示され、「**現在のパスワードの入力**」というメッセージが表示されますので、もう一度パスワードを正しく入力してください。変更内容をキャンセルするか、別のパスワードを入力するには、**MENU** を押してください。
5. 新しいパスワードを入力します。

   重要：入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。本書の下の欄に設定したパスワードを書き留めておいてください。

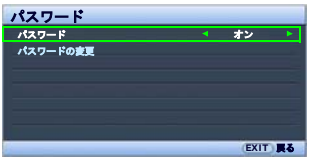
   パスワード： _ _ _ _ _ _
   本書は安全な場所に保管しておいてください。

6. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。
7. プロジェクタに新しいパスワードが割り当てられました。次回プロジェクタを起動したときには、必ず新しいパスワードを入力してください。
8. OSD メニューを終了するには、MENU を押します。



パスワード機能を無効にする

パスワード機能を無効にするには、**詳細セットアップ** > **パスワード** > **パスワード**メニューに戻ってください。**パスワード**を選択し、◀ /▶ を押して**オフ**を選択してください。すると「**パスワードの入力**」というメッセージが表示されます。現在のパスワードを入力してください。



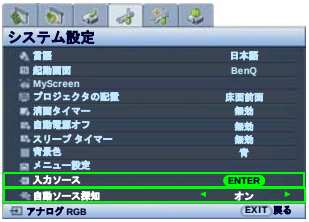
- パスワードが正しければ、OSD メニューの**パスワード**ページで「パスワード」の欄が**オフ**の状態で表示されます。次回プロジェクタをオンにするときには、パスワードを入力する必要はありません。
- パスワードが間違っていれば、パスワードエラーメッセージが 3 秒間表示され、「**パスワードの入力**」というメッセージが表示されますので、もう一度パスワードを正しく入力してください。変更内容をキャンセルするか、別のパスワードを入力するには、MENU を押してください。

パスワード機能を無効にしても、再びパスワード機能を有効にするときに古いパスワードを入力するよう要求されますので、古いパスワードは忘れないように記録し保管しておいてください。

入力ソースの切り替え

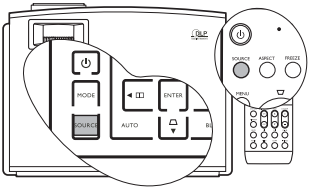
プロジェクタは同時に複数の装置に接続することができます。起動時にプロジェクタは自動的に有効な信号を検出します。

プロジェクタに信号を自動検出させるには、**システム設定**（システム設定）メニューで**自動ソース探知**機能が**オン**（本製品のデフォルト値です）になっていることを確認してください。



入力ソースは手動で切り替えることも可能です。

1. プロジェクタかリモコンの SOURCE を押します。するとソース選択バーが表示されます。
   （**システム設定** > **入力ソース**メニューで ENTER を押す方法もあります）。
2. 任意の信号が選択されるまで ▲/▼ を押し、次に ENTER を押します。
   信号が検出されたら、選択したソース情報が画面の隅に 3 秒間表示されます。プロジェクタに複数の装置が接続されている場合は、再びこのキーを押すと別の信号を検出することができます。





RJ-45 は、オプションの Signal Shuttle モジュールがプロジェクタの RJ-45 入力ソケットに接続されている場合にのみ選択してください。

プロジェクタの機能である Split Screen と PIP の機能は、2 種類の信号を同時に表示します。詳細は、52 ページの " 複数の画像ソースを同時に表示する " を参照してください。

入力ソースを変えると、そのたびに投写画像の輝度も変わります。通常ほとんどが静止画を使ったデータ（グラフィック）PC プレゼンテーションは、ほとんどが動画（ムービー）のビデオよりも明るくなります。

入力ソースのタイプによって、**ピクチャ モード**のオプションが変わります。詳細は、43 ページの " ピクチャモードの選択 " を参照してください。

投写画像の調整

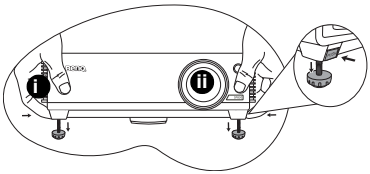
投写角度の調整

このプロジェクタには 2 つのクイックリリースアジャスタフットが付いています。これらのアジャスタは、画像の高さと投写角度を調整するために使用します。

プロジェクタを調整するには、プロジェクタの手前部分を少し持ち上げて、底面近くにある両サイドのクイックリリースキーを画像が正しく表示されるまで押したままにします。

フットを縮めるには、クイックリリースキーを押しながらプロジェクタの手前部分を持ち上げて、ゆっくりとプロジェクタを下ろします。

プロジェクタが平面に設置されていなかったり、スクリーンに対してプロジェクタが直角に設置されていない場合は、投写画像が歪んでしまいます。このような問題を補正する方法については、38 ページの " 画像の歪みの補正する " を参照してください。

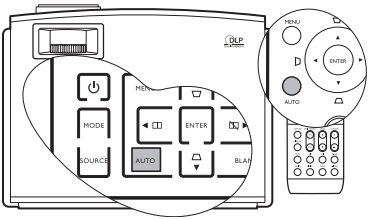


i. 熱風が排気される場所にご注意ください。

ii. ランプが点灯しているときには絶対にレンズを覗かないでください。ランプからは強い光が発されており、目を傷つける場合があります。

画像の自動調整

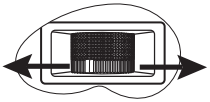
場合によっては、画質を最適化する必要が生じることもあります。これを実行するには、プロジェクタかリモコンの AUTO を押します。組み込みのインテリジェント自動調整機能により周波数およびクロックの値が再調整され、3 秒以内に最適な画質が得られます。



画像サイズと明瞭さの微調整

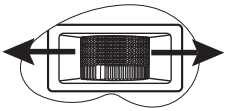
1. 投写画像のサイズを調整するには、ズームリングを使用します。





2. 次にピントリングを回して焦点を合わせます。





画像の歪みの補正する

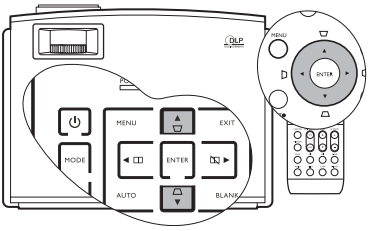
2D キーストーンの補正

キーストーンはプロジェクタがスクリーンに対して垂直に設置されていないため、投写画像が次のいずれかのように台形状に表示されるときに発生します。

- 2 つの平行する辺 (左と右、または上と下) が、片方がもう片方よりも明らかに長い。
- 辺が平行になっていない。

画像の形状を補正するには、次の手順にしたがってください。

1. 投写角度を調整してください。プロジェクタをスクリーンの手前中央に配置し、レンズの下側をスクリーンの上端または下端に合わせてください。
2. それでも画像が歪んでいる場合、あるいはプロジェクタを上記のように設置できない場合は、手動で補正する必要があります。



- **リモコンまたはプロジェクタの使い方**

  i. キーストーン / 矢印キーの 1 つを押すと (リモコンの ▽/▲、◁/◀、△/▼、◁/▶ 、またはプロジェクタの ▽/▲、△/▼)、**キーストーン**ページが開きます。

  ii. 詳しい操作方法については、iv ステップを参照してください。

- **OSD メニューの使用方法**

  i. MENU を押して、**ディスプレイ**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。

  ii. ▼ を押して、**キーストーン**を選択し、次に ENTER を押してください。すると**キーストーン**ページが表示されます。

  iii. **2D キーストーン**を選択し、ENTER を押します。するとキーストーン補正ページが表示されます。

  iv. 投写画像の形状に似たキーストーンアイコンが示されたキーを押します。形状が正しく表示されるまでそのキーを続けて押すか、他のキーを押してください。
  キーを押す度に、ページ下の値が変わります。キーを繰り替えし押すうちに、その最高値または最低値に達すると、画像の形状が変化しなくなります。それ以上はその方向に変更を加えることはできません。







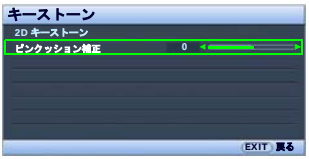
ピンクッションとバレルの補正

投写面に凹凸があると、投写画像が歪む場合があります。

- **ピンクッションひずみ**
  画像の中心を通らない縦線と横線が画像の中央に向かって内側に歪むことです。歪みは画像の隅に最も顕著に見られます。
- **バレル補正**
  画像の中心を通らない縦線と横線が画像の中央から外側に歪むことです。歪みは画像の隅に最も顕著に見られます。

画像の形状を補正するには、次の手順にしたがってください。

1. MENU を押して、**ディスプレイ**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、**キーストーン**を選択し、次に ENTER を押してください。すると**キーストーン**ページが表示されます。
3. ▼ を押して**ピンクッション補正**を選択し、形状が正しく表示されるまで ◀/▶ を押してください。



平行になっている



▽/▲ を押します。　△ /▼ を押します。

辺が平行になっていない



1. ◁/▶ を押します。　2. △ /▼ を押します。

ピンクッション / バレル補正



ディスプレイ > キーストーン > ピンクッション補正メニューで ▶ を押します。

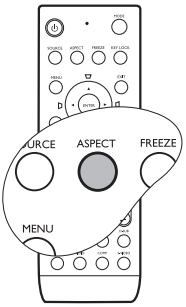
ディスプレイ > キーストーン > ピンクッション補正メニューで ◀ を押します。

縦横比の選択

「縦横比」とは、画像の幅と高さの比率のことです。ほとんどのアナログ TV とコンピュータの画面の縦横比率は 4:3 です。一方、デジタル TV や DVD の場合は 16:9 です。

デジタル信号処理能力が進化するにつれ、このプロジェクタのようなデジタルディスプレイ装置は画像出力を画像入力ソースとは異なる縦横比にまで拡張できるようになりました。

投写画像の比率を変更する (ソースの縦横比に関係なく) :



- **リモコンの使用方法**

1. **ASPECT** を押すと、現在の設定が表示されます。
2. **ASPECT** を押して、ビデオ信号のフォーマットとディスプレイの条件に合わせて適切な縦横比を選択してください。



- **OSD メニューの使用方法**

1. **MENU** を押して、**ディスプレイ**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、**縦横比**を選択します。
3. ◀/▶ を押して、ビデオ信号のフォーマットとディスプレイの条件に合わせて適切な縦横比を選択してください。

黒いエリア周りの画像をシフトする

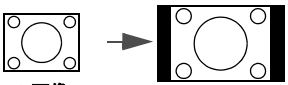
上下に未使用のエリアがある場合は、未使用エリアの上部または下部に達するまで画像を縦にシフトさせることができます。

画像をシフトさせるには :

1. **ディスプレイ**メニューで ▲ か ▼ を押して、**デジタル画面シフト**を選択します。
2. ◀ か ▶ を押して、投写エリアの縦方向の位置を調整します。

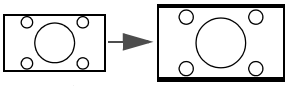
縦横比について

1. **4:3**: スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるように画像を調整します。これは縦横比を変更せずにすむため、コンピュータモニタ、標準精度の TV、縦横比 4:3 の DVD ムービーなどの 4:3 画像に適しています。



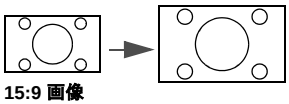
4:3 画像

2. **アナモフィック** : スクリーンの中央に表示されるように、1280 x 720 ピクセルで画像を調整します。この方法では、元のソース画像の縦横比によっては投写縦横比が変わる場合があります。アナモフィックの設定は、縦横比を変更する必要がないため高精度 TV など、すでに縦横比が 16:9 になっている画像に適しています。



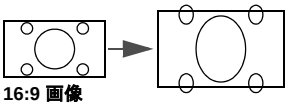
16:9 画像

3. **全画面** : 画像を投写エリア全体に合わせてリサイズします。元の縦横比を維持せずに、1280 x 768 ピクセルが使用されます。これは 15:9 画像に最も適しています。

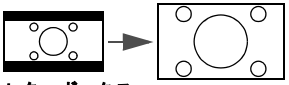


15:9 画像

4. **レター ボックス** : プロジェクタの最高解像度に合わせて画像の横幅を調整し、画像の高さの投写幅の 3/4 にリサイズします。この投写においては、1280 x 960 ピクセルが使用されます。この場合、画像の高さが表示可能な高さを超えてしまい、投写画像の上下両端に沿って一部が消えてしまう場合があります (表示されない)。この設定は、レターボックス フォーマットで表示されるムービーに適しています (上下に黒いバーを持つもの)。

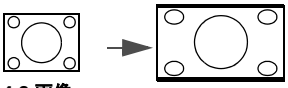


16:9 画像



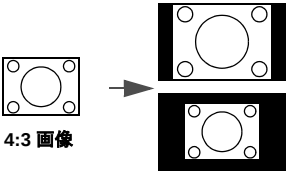
レターボックス フォーマット画像

5. **ワイド** : は非リニア方式で画像を横方向に引き伸ばします。つまり画像の中央部が歪むのを防止するために、画像の端が画像の中央よりも外側に引き伸ばされます。この設定は縦横比 4:3 の画像の幅を 16:9 スクリーンの幅に引き伸ばしたい場合に適しています。この場合、高さは変更されません。ワイドスクリーンムービーの中には、その幅が 4:3 の幅まで縮小されているものがあり、この設定を使用することにより元の幅に戻して鑑賞することができます。



4:3 画像

6. **実寸** : 1280 x 768 以下の入力低解像度の入力ソースでは、投写画像はフルスクリーンサイズに変更した場合よりも小さいサイズで表示されます。
入力ソースが 1280 x 768 よりも高い解像度の場合は、投写スクリーンの幅または高さに合わせて画像が縦横比を維持しながらリサイズされます。



4:3 画像

未使用の黒いエリアには OSD メニューを表示することができます。

投写画像の詳細を拡大および表示する

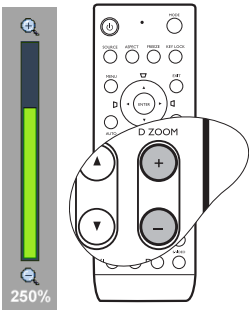
投射画像の詳細を見たい場合は、画像を拡大してください。画像は 50% ずつ元の画像サイズから最高 300% まで拡大することができます。画像をナビゲートするには、方向矢印キーをお使いください。

- **リモコンの使用方法**

1. D. ZOOM + を押すとズームバーが表示されます。再びキーを押すと、画像の中央が拡大されます。適切な画像サイズになるまでキーを押してください。
2. プロジェクタかリモコンの方向矢印キー (▲、▼、◀、▶) を使って、画像をナビゲートします。

   画像は拡大された後でなければナビゲートすることはできません。詳細を検索しながら、画像をさらに拡大することができます。

3. 画像サイズを縮小するには、D. ZOOM - を押します。再びキーを押すと、元のサイズに戻るまで縮小されます。



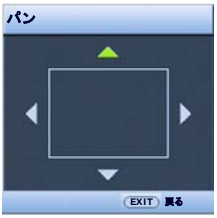
- **OSD メニューの使用方法**

1. MENU を押して、**ディスプレイ**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、**デジタル ズーム**を選択します。
3. ▶ を押して画像を任意のサイズに拡大します。
4. ▼ を押して、**パン**を選択し、ENTER を押すと**パン**ページが表示されます。

   パンサブメニューは、画像が拡大されているときにしか使用できません。

5. プロジェクタかリモコンの方向矢印キー (▲、▼、◀、▶) を使って、画像をナビゲートします。
6. 画像のサイズを縮小するには EXIT を押すか、MENU を押して**ディスプレイ**メニューに戻り、**デジタル ズーム**を選択して、元のサイズに戻るまで ◀ を押してください。





ピクチャモードの選択

このプロジェクタは操作環境や入力ソースの画像タイプによって自由に選択できるように、いくつかのピクチャモードが設定されています。

信号タイプごとに使用できるピクチャモードは次の通りです。

1. **ダイナミック**モード：画像の輝度を最大限明るくします。このモードは、輝度を最高に明るくする必要がある環境に適しています（プロジェクタを明るい部屋で使用する場合など）。
2. **シネマ**モード：このモードは暗くしたホームシネマルームやラウンジなどで DVD ムービーを楽しむのに適しています。
3. **ブラックボード**モード：教育用に設けられたモードです。通常のスクリーンではなく、黒板などの暗い背景に画像を投写することができます。明るい部屋で、暗い背景を使って投写する場合に適しています。
4. **ユーザー 1/ ユーザー 2/ ユーザー 3** モード：現在有効なピクチャモードを元にカスタマイズした設定を呼び出します。詳細は、44 ページの " ユーザー 1/ ユーザー 2/ ユーザー 3 モードの設定 " を参照してください。
5. **プレゼンテーション**モード (グラフィック入力ソース専用 *)：プレゼンテーションに向いています。このモードでは PC の色に合わせて輝度が強調されます。
6. **sRGB** モード (グラフィック入力ソース専用 *)：RGB の純度を最高に上げて、輝度設定に関係なく実物のようなリアルな画像を再現します。このモードは sRGB 対応の正しく調整されたカメラで撮影したフォトを見たり、PC グラフィックや AutoCAD などの描画アプリケーションを見るのに適しています。
7. **標準**モード (ビデオ入力ソース専用 **)：デジタルカメラや DV からカラフルなムービーやビデオクリップを表示する場合に適しています。

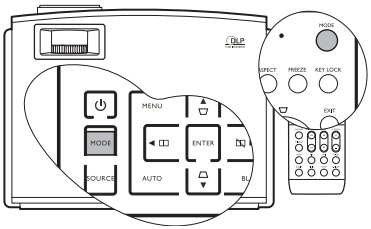
*** グラフィック入力ソース：アナログ RGB、DVI-A、DVI-D、RJ-45**

**** ビデオ入力ソース：コンポーネント、S ビデオ、ビデオ**

必要に合ったピクチャモードを選択するには：

- **リモコンの使用方法**

1. 任意のモードが選択されるまで、リモコンかプロジェクタの MODE を押します。



- **OSD メニューの使用方法**

1. MENU を押して、**ピクチャ -- 基本設定**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、**ピクチャ モード**を選択します。
3. 任意のモードが選択されるまで、◀/▶ を押してください。



選択したピクチャモードの微調整

あらかじめ定義していおいたピクチャモードの設定は、**ピクチャ -- 基本設定**および**ピクチャ -- 詳細設定**メニューに表示される有効なアイテムから変更することができます。

ピクチャモードの微調整：

1. MENU を押して、**ピクチャ -- 基本設定**か**ピクチャ -- 詳細設定**メニューが表示されるまで ◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して調整したいアイテムを選択し (**輝度、コントラスト、色、色合い、シャープネス、色温度、透明度調整、ガンマ選択、色管理**の中から)、◀/▶ を押して値を設定してください。選択したアイテムはプロジェクタに自動的に保存され、その入力ソースに関連付けられます。
   詳細は、46 ページの " 画質の微調整 " と 47 ページの " 画質の詳細設定 " を参照してください。

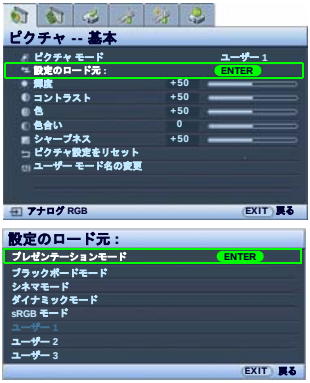
ピクチャモードを変更する度に、そのピクチャモードに最後に設定された値に変更されます。入力ソースを変更すると、その入力と解像度の最後に使用したピクチャモードと設定が読み込まれます。

ユーザー 1/ ユーザー 2/ ユーザー 3 モードの設定

現在有効な画像モードがニーズに合わない場合は、3 つのユーザー設定モードを使用することができます。ピクチャモードの 1 つ (選択したユーザーモードを除く) を参照点として、設定をカスタマイズすることができます。

1. **ピクチャ -- 基本設定**メニューで**ピクチャモード**を選択し、◀/▶ を押して、**ユーザー 1**、**ユーザー 2**、**ユーザー 3** モードのいずれかを選択します。
2. ▼ を押して、**設定のロード元 :** を選択します。

   この機能は、ピクチャ モードサブメニューアイテムでユーザー 1、ユーザー 2、ユーザー 3 のいずれかのモードが選択されていなければ使用できません。
3. ENTER を押すと**設定のロード元 :** ページが表示されます。
4. ▼ を押してニーズに最も合ったピクチャモードを選択し、ENTER を押した後で EXIT を押してください。
5. ▼ を押して変更したいサブメニューアイテムを選択し、◀/▶ を使って値を調整します。詳細は、46 ページの " 画質の微調整 " を参照してください。
6. すべての設定が完了したら、MENU を押して設定を保存し、終了してください。



ユーザーモードの名前変更

ユーザー 1、**ユーザー 2**、**ユーザー 3** の名前をこのプロジェクタを使用する人が分かりやすい名前に変更することができます。新しい名前はアルファベット (A-Z、a-z)、数字 (0-9)、およびスペース (_) を使って 12 文字以内で指定することができます。

ユーザーモードの名前を変更するには :

1. **ピクチャ -- 基本設定**メニューで**ユーザー モード名の変更**を選択し、ENTER を押すと**ユーザー モード名の変更**ページが開きます。
2. ▲/▼ を押して名前を変更したいアイテムを選択し、ENTER を押してください。白いボックスに最初の文字がハイライト表示されます。
3. ▲/▼ を押して最初の文字を選択します。
4. ► を押して新しい名前を指定し、完了したら ENTER を押して新しい名前を確認してください。
5. 他の名前も変更したい場合は、2-4 を繰り返します。

ピクチャモードのリセット

ピクチャ -- 基本設定と**ピクチャ -- 詳細設定**メニューで行った変更内容はすべて、**リセット**を選択することによって工場出荷時の値に戻すことができます。

ピクチャモードをプリセットの工場出荷時の値に戻すには :

1. **ピクチャ -- 基本設定**で**ピクチャ モード**を選択し、◀/► を押してリセットしたいピクチャモード (**ユーザー 1**、**ユーザー 2**、**ユーザー 3** を含みます) を選択します。
2. ▼ を押して、**ピクチャ設定をリセット**を選択し、次に ENTER を押してください。確認のメッセージが表示されます。
3. ◀/► を押して、**リセット**を選択し、次に ENTER を押してください。するとピクチャモードが工場出荷時の設定に戻ります。
4. 他のピクチャモードもリセットしたい場合は、1-3 を繰り返します。

☞ **ここでのピクチャ設定をリセット機能と、詳細セットアップメニューの全設定をリセットを混同しないでください。全設定をリセット機能はシステム全体のほぼすべての工場設定値を元に戻します。詳細は、68 ページの " 全設定をリセット " を参照してください。**

画質の微調整

どのようなピクチャモードが選択されていても、プレゼンテーションの目的に合うようにこれらの設定を細かく調整することができます。これらの調整内容は、OSD メニューを終了するときに選択中のプリセットモードに保存されます。

調整輝度



ピクチャ -- 基本設定メニューで **輝度**を選択し、プロジェクタかリモコンで ◀/▶ を押して値を調整します。

値を高くするほど画像が明るくなります。値を小さくするほど画像は暗くなります。このコントロールを調整すると、画像の黒い領域が黒く表示されるため、暗い領域の詳細が見えるようになります。

調整コントラスト



ピクチャ -- 基本設定メニューで**コントラスト**を選択し、プロジェクタかリモコンで ◀/▶ を押して値を調整します。

値を高くするほどコントラストが増加します。選択した入力と表示環境に合わせて**輝度**を調整した後、これを使って白のピークレベルを設定することができます。

調整色

ピクチャ -- 基本設定メニューで**色**を選択し、プロジェクタかリモコンで◀/▶ を押して値を調整します。

設定値を低くすると色の飽和レベルが低くなり、最低値に設定するとモノクロ画像になります。逆に値を上げすぎると、画像の色が不自然に強調されてしまいます。

調整色合い

色合いを選択し、プロジェクタかリモコンで ◀/▶ を押して値を調整します。

値を高くするほど赤みがかった画像になります。値を低くするほど緑がかった画像になります。

調整シャープネス



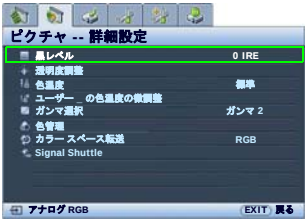
シャープネスを選択し、プロジェクタかリモコンで ◀/▶ を押して値を調整します。

値を高くするほど画像がシャープになります。値を低くするほど画像が柔らかくなります。

画質の詳細設定

ピクチャ -- 詳細設定メニューには、設定をより細かく設定できるオプションがあります。設定を保存するには、**MENU** を押して OSD メニューを終了してください。

設定黒レベル

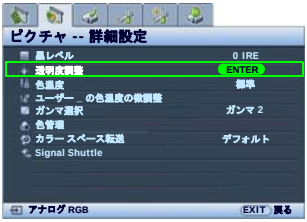


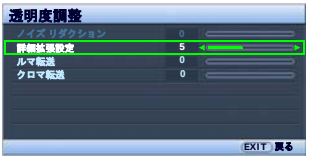
黒レベルを選択し、プロジェクタかリモコンで ◀ / ▶ を押して **0 IRE** か **7.5 IRE** を選択します。

グレイスケールのビデオ信号は IRE ユニットで測定されます。NTSC TV 規格を使用するエリアでは、グレイスケールを 7.5 IRE (黒) から 100 IRE(白) で測定する場合がありますが、PAL 規格を使用するエリアや、日本の NTSC 規格を使用するエリアでは、グレイスケールは 0 IRE (黒) から 100 IRE (白) で測定します。入力ソースが 0 IRE または 7.5 IRE のどちらを使用するかを確認した上で、正しい選択を行ってください。

画像の透明度を調整する

投写画像にノイズが走る場合があります。





画質をより高くするには :

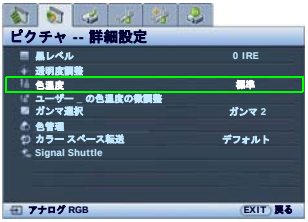
1. **透明度調整**を選択し、プロジェクタかリモコンで **ENTER** を押し、**透明度調整**ページを開きます。
2. ▲/▼ を押して調整したいアイテムを選択し、◀ / ▶ を押して任意の値に設定します。
   - **ノイズ リダクション** : メディアプレーヤーによって生じる画像の電子ノイズを縮減します。値を高くするほどノイズが少なくなります。
   - **詳細拡張設定** : 画像をシャープします。値を高くするほど、画像の詳細がよりはっきりとします。
   - **ルマ転送** (Luminance Transmission Improvement) : 画像の輝度を強調します。値を高くするほど、効果が高くなります。
   - **クロマ転送** (Chroma Transmission Improvement) : 色のぼかしを縮減します。値を高くするほど、効果が高くなります。

色温度の選択 *

色温度を選択し、プロジェクタかリモコンで ◀ / ▶ を押して値を調整します。

いくつかの色温度設定が使用できます。

1. **ランプ ネイティブ :** 色温度はランプの元の状態のまま、輝度は高くなります。この設定は、輝度を最高に明るくする必要がある環境に適しています（プロジェクタを明るい部屋で使用する場合など）。
2. **高い :** 画像を赤みがかった白で表示します。
3. **標準 :** 白の色合いを通常に保ちます。
4. **低い :** 画像を青みがかった白で表示します。
5. **ユーザー 1/ ユーザー 2/ ユーザー 3: ユーザー _ の色温度の微調整**メニューでカスタマイズした設定を呼び出します。詳細は、48 ページの " 色温度の設定 " を参照してください。



*** 色温度について :**

用途に応じて「白」とみなされる色合いが多数存在します。白色を表すためによく使用される方法の 1 つに「色温度」があります。色温度の低い白色は赤みがかった白で表示されます。色温度の高い白色は青みがかって表示されます。

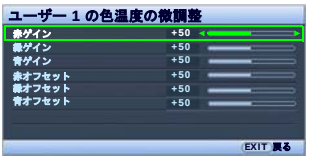
色温度の設定

任意の色温度を設定するには :

1. **色温度**を選択し、プロジェクタかリモコンで ◀/▶ を押してし、**ユーザー 1**、**ユーザー 2**、**ユーザー 3** を選択します。
2. ▼ を押して、**ユーザー _ の色温度の微調整**を選択し、次に ENTER を押してください。すると**ユーザー _ の色温度の微調整**ページが表示されます。

   ☞ **メニュー名「ユーザー _」は色温度で選択した設定に相当します。**

3. ▲/▼ を押して変更したいアイテムを選択し、◀ / ▶ を押して値を調整します。
   - **赤ゲイン / 緑ゲイン / 青ゲイン** : 赤、緑、青のコントラストレベルを調整します。
   - **赤オフセット / 緑オフセット / 青オフセット** : 赤、緑、青の明るさのレベルを調整します。
4. 設定を保存して終了するには、MENU を 1 回押すか、EXIT を 2 回押してください。



色管理

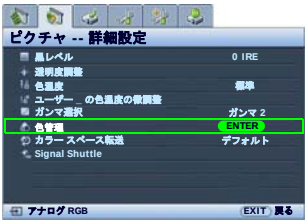
色管理では、6 セット (RGBCMY) の色を気に入った色に調整することができます。各色を選択すると、その色範囲と彩度を個別に調整することができます。

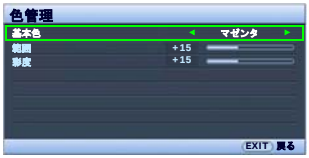
設定を調整して保存するには :

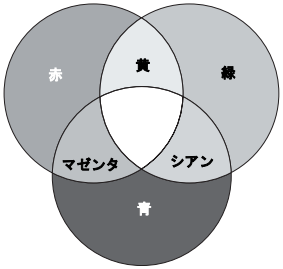
1. **ピクチャ -- 詳細設定**メニューで**色管理**を選択して ENTER を押します。すると**色管理**ページが表示されます。
2. **基本色**を選択し、◀ /▶ を押して**赤**、**黄**、**緑**、**シアン**、**青**、**マゼンタ**の中から色を選択します。
3. ▼ を押して、**範囲**を選択し、◀ /▶ を押して調整したい色範囲を選択します。範囲を広くするほど、2 色の隣り合う色に含まれる色域が広くなります。

   各色がどのように関連し合っているかについては、右図を参照してください。例えば、**赤**を選択し、その範囲を 0 に設定すると、純粋な赤しか選択されます。その範囲を広げると、黄色に近い赤とマゼンタに近い赤の両方が含まれます。
4. ▼ を押して**彩度**を選択し、◀ /▶ を押して彩度レベルを調整します。
   赤を選択し、その範囲を 0 に設定すると、純粋な赤の彩度しか影響を受けません。

   ☞ **彩度とはビデオ映像の色の量のことです。値を低くすると彩度が低くなります。0 に設定すると、画像から完全に色を抜いてしまいます。彩度が高すぎると、色が濃すぎて非現実的な色になってしまいます。**
5. 設定を保存して終了するには、MENU を 1 回押すか、EXIT を 2 回押してください。







ガンマ設定の選択

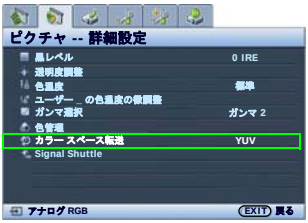


ガンマ選択を選択し、プロジェクタかリモコンで ◀ /▶ を押して値を調整します。

ガンマとは、入力ソースと画像の輝度の関連性のことです。数値を下げるほど、黒の詳細が目立つようになります。

- ガンマ 1 および 6
  画像の輝度を上げます。
  明るい環境、会議室、リビングルームに最適です
- ガンマ 2
  PC の画面標準をシミュレートします。
- ガンマ 3
  黒板を投写スクリーンとして使用する場合に適しています。
- ガンマ 4：ガンマ曲線 2.2 sRGB 規格
  sRGB フォトを表示するのに適しています。
- ガンマ 5 および 7
  暗室でムービーを鑑賞するのに最適です
- ガンマ 8
  黒の詳細を強調します。
  影などの黒の詳細を多く含むムービーを鑑賞するのに最適です

カラー スペース転送



プロジェクタのコンピュータ (データ) ベースの入力 (**アナログ RGB**、**DVI-A**、**RJ-45** など) を介してプロジェクタを TV セットトップボックスに接続するような場合、投写画像の色が正しく表示されない場合がありますが、その場合はカラースペースを **YUV** に変更してください。

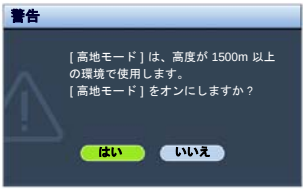
高地での操作

海抜 1500 メートル以上でこのプロジェクタを使用する場合、あるいは長時間 (>10 時間) 連続して使用する場合は、**高地モード**に設定するようお薦めします。

高地モードに設定するには :

1. MENU を押して、**詳細セットアップ**メニューが表示されるまで ◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、**高地モード**を選択します。
3. ◀/▶ を押して**オン**を選択します。確認のメッセージが表示されます。
4. **はい**をハイライトして、ENTER を押します。



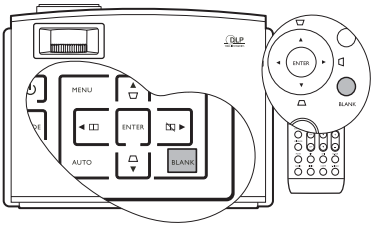


高地モードを選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが高くなる場合があります。

上記の場合を除き、その他の極限環境でプロジェクタを使用すると、プロジェクタが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクタを過熱から保護するために設置された機能です。このような場合は、**高地モード**切り替えてみてください。これは、このプロジェクタが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。

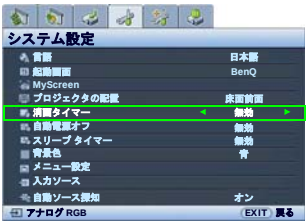
画像を隠す

BLANK を使用するとスクリーンの画像が消えるため、聴衆の関心をすべて講演者に向けることができます。画像が非表示になると、スクリーンの右下隅に、**BLANK** と表示されます。オーディオ入力を使用している場合は、この機能を使用してもサウンドは流れたままになります。



一定時間プロジェクタやリモコンの操作が行われない場合画像を戻すまでの時間は、**システム設定 > 消画タイマー**メニューで設定することができます。タイマーは 5 分間隔で 5 分から 30 分までの範囲で設定できます。

プリセットの時間がこれから行うプレゼンテーションに合わない場合は、**無効**を選択してください。



消画タイマーの有効 / 無効に関わらず、どれでもキーを押すと (**LASER および電源**以外) 直ちに画像を戻すことができます。

投写中に投写レンズを他の物体で覆わないでください。その物体が過熱し、火災の原因となり危険です。

複数の画像ソースを同時に表示する

このプロジェクタは 2 台の入力ソースから同時に画像を表示することができます。この機能を使用すると、プレゼンテーションをより興味深く行うことができます。表示したい信号がプロジェクタに正しく接続されていることを確認してください。

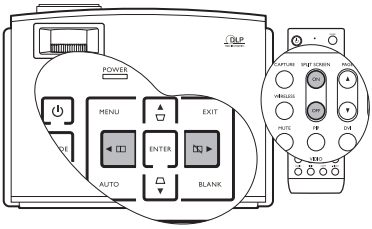
画像の分割

左右均等に二分することにより、2 台の入力ソースを表示することができます。この場合、各ソースは最大で 640 x 768 ピクセルを使用します。分割画面を表示するには：

- **リモコンまたはプロジェクタの使用方法**

プロジェクタで ⧈ を押すか、リモコンで SPLIT SCREEN/ON を押して、投写スクリーンを分割し、任意の表示方法が選択されるまでさらに同じキーを押してください。

スクリーンを 1 つの大きい状態に戻すには、⧉ か SPLIT SCREEN/OFF を押します。



- **OSD メニューの使用方法**

1. MENU を押して、**ディスプレイ**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、Split Screen を選択し、次に ENTER を押してください。すると Split Screen ページが表示されます。
3. Split Screen を選択し、◀ /▶ を押して**オン**を選択してください。

プロジェクタは現在有効な 2 つの信号を選択し、最後に表示した画像をメインのソースとして右側に表示します。





競合するソースの組み合わせについては、54 ページの "Split Screen と PIP のソース競合リスト " を参照してください。

4. **左ソース**か**右ソース**を変更するには、▼ を押して**左ソース**か**右ソース**を選択し、ENTER を押します。するとソース選択ページが表示されます。
5. ▲/▼ を使って左右ウィンドウに表示したいソースを選択し、ENTER を押すと設定が保存され、Split Screen ページに戻ります。
6. OSD 設定を 2 つのソース (左か右) のうちのどちらかにするには、**アクティブ ウィンドウ**を選択した後、◀ /▶ を押して調整したいソースを選択します。

   OSD メニューで行った設定は、アクティブウィンドウでしか有効になりません。詳細は、54 ページの " アクティブウィンドウで無効な機能 " を参照してください。

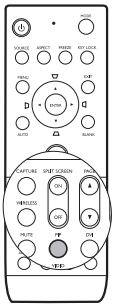
7. 画像を表示する方法を変更するには、**分割画面の関連性**を選択し、◀/▶ を押して任意の方法を選択します。詳細は、54 ページの "Split Screen 方式 " を参照してください。

PIP (Picture In Picture) の操作

PIP ウィンドウを表示するには :

- **リモコンの使用方法**

PIP を押して **PIP** ページを表示し、「OSD メニューの使用方法」のセクションで説明するステップ 3 からの手順にしたがい調整を行います。



- **OSD メニューの使用方法**

1. **MENU** を押して、**ディスプレイ**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、**PIP** を選択し、次に **ENTER** を押してください。すると **PIP** ページが表示されます。
3. **PIP** を選択し、◀/▶ を押して **オン**を選択してください。

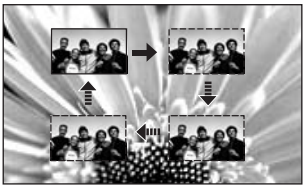


プロジェクタは現在有効な 2 つの信号を選択し、最後に表示した画像をメインのソースとして大きいスクリーンに表示します。

☞ **競合するソースの組み合わせについては、54 ページの "Split Screen と PIP のソース競合リスト " を参照してください。**

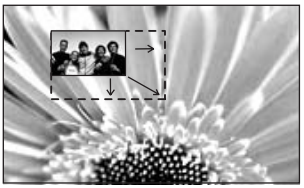


4. **入力ソース**か 2 **番目のソース**、を変更するには、▼ を押して**入力ソース**か 2 **番目のソース**を選択し、**ENTER** を押します。するとソース選択バーが表示されます。
5. ▲/▼ を使ってメイン (大きい方) ウィンドウか、2 番目のウィンドウに表示したいソースを選択し、**ENTER** を押すと設定が保存され、**PIP** ページに戻ります。
6. OSD 設定を 2 つのソース (メインか 2 番目) のうちのどちらかにするには、**アクティブウィンドウ**を選択した後、◀/▶ を押して調整したいソースを選択します。



☞ **OSD メニューで行った設定は、アクティブウィンドウでしか有効になりません。詳細は、54 ページの " アクティブウィンドウで無効な機能 " を参照してください。**

7. 小さい方の画像の位置を移動させるには、**位置**を選択し、適切な位置が選択されるまで ◀/▶ を押してください。
8. 小さい画像のサイズを変更するには、**サイズ**を選択し、◀/▶ を押して PIP サイズを**小さい**か**大きい**に設定します。



9. 設定を保存して OSD メニューを終了するには、**MENU** を 1 回押すか、メニューが消えるまで **EXIT** を押してください。

Split Screen と PIP のソース競合リスト

次のソースの組み合わせは、Split Screen と PIP の機能を使って同時に表示することはできません。**DVI-A+DVI-D、コンポーネント + ビデオ、コンポーネント +S ビデオ、RJ-45+ ビデオ、RJ-45+S ビデオ**、および**ビデオ +S ビデオ**。

アクティブウィンドウで無効な機能

次の OSD メニューは Split Screen のアクティブウィンドウには使用できません。**デジタル画面シフト、オーバースキャン調整、デジタル ズーム、パン**、PIP、MyScreen、**自動ソース探知、縦横比**。

次の OSD メニューは PIP のアクティブウィンドウには使用できません。**デジタル画面シフト、オーバースキャン調整、デジタル ズーム、パン**、Split Screen、MyScreen、**自動ソース探知**。

Split Screen と PIP 機能についてのその他の注

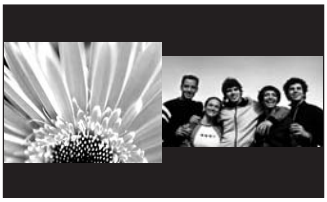
- ディインターレースされた信号は、Split Screen の左側への表示には適しません。
- SXGA/720P よりも高い解像度は、PIP と Split Screen 機能による表示に適しません。
- **シャープネス、詳細拡張設定、ルマ転送**、および**クロマ転送**は、Split Screen と PIP のより大きい画面の右側の画面でのみ機能します。

Split Screen 方式

- **均等に分割**



- **プロポーショナル**



- **左側を大きく**



- **右側を大きく**

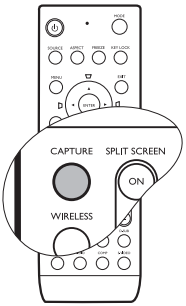


オリジナルのスタートアップ画面を作成する

スタートアップ画面はプリセットの BenQ ロゴまたは青いスクリーンが用意されていますが、これら以外にもコンピュータやビデオソースからプロジェクタに画像をダウンロードすることによって、ユーザー自身のスタートアップ画面を作成することができます。

オリジナルのスタートアップ画面を作成するには、使用したい画像をコンピュータかビデオソースから投写します。残りの手順は次の通りです。

- **リモコンの使用方法**



1. リモコンの CAPTURE を押します。
2. 確認のメッセージが表示されます。CAPTURE か ENTER をもう一度押してください。
3. 画像をキャプチャしている間、**画面のキャプチャ ...** というメッセージが表示されます。処理が完了するまでお待ちください。
4. 処理が完了すると、**キャプチャが完了しました**というメッセージが表示されます。キャプチャした画像は MyScreen として保存されます。
5. キャプチャした画像をスタートアップ画面として表示するには、**システム設定 > 起動画面** メニューで MyScreen を設定し、プロジェクタを再起動してください。

- **OSD メニューの使用方法**



1. MENU を押して、**システム設定**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、MyScreen を選択し、次に ENTER を押してください。
3. 「リモコンの使用方法」セクションのステップ 2-5 までの手順にしたがい、画像をキャプチャして表示してください。

まれにキャプチャ処理に失敗することがありますが、その場合はターゲットの画像を変更してみてください。

プロジェクタのメニューディスプレイのカスタマイズ

オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューは自由に変えることができます。次の設定は投射設定、操作、性能には影響しません。

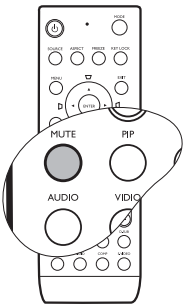
- **ユーザー モード名の変更** : 詳細は、45 ページの " ユーザーモードの名前変更 " を参照してください。
- **システム設定** > **メニュー設定**メニューの**メニュー表示時間**では、最後にキーを押してからの OSD の表示時間を設定します。設定は 5 秒毎に 5 から 30 秒までの範囲で設定できます。◀ /▶ を使って適切な時間を選択してください。
- **システム設定** > **メニュー設定**メニューの**メニュー位置**で OSD の位置を 5 つの位置に設定します。◀ /▶ を使って任意の位置を選択してください。
- **システム設定**メニューの**言語**で OSD メニューの言語を設定します。詳細は、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
- **システム設定**メニューの**起動画面**で、スタートアップ時に表示するロゴ画面を設定します。詳細は、55 ページの " オリジナルのスタートアップ画面を作成する " を参照してください。

音量調整

下記の手順で行った音量調整は、プロジェクタスピーカーと、外付けスピーカーを使用している場合はオーディオ出力信号に影響します。

プロジェクタのオーディオ入力と、外付けスピーカーを使用する場合はプロジェクタのオーディオ出力に正しく接続されていることを確認してください。詳細は、29 ページの " オーディオ装置の接続 " を参照してください。

無音にする



リモコンの MUTE を押すと、一時的に音を消すことができます。サウンドが消えている間、スクリーンの右上隅に と表示されます。

サウンドを戻すには、再び MUTE を押します。

オーディオのオン / オフは、**詳細セットアップ** > **オーディオ**メニューでも切り替えることができます。詳細は、このページの OSD 画像を参照してください。

他の音量調整

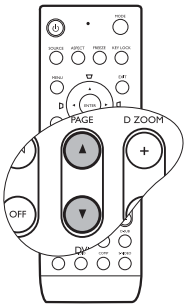


1. リモコンの AUDIO を押して**オーディオ**ページを表示します (**オーディオ**メニューには、MENU を押して OSD メニューを開き、**詳細セットアップ**メニューで**オーディオ**を選択して、ENTER を押す方法もあります)。
2. 音量を調整するには、▼ を押して**音量**を選択し、◀ / ▶ を使って音量レベルを調整します。
3. 高温を調整するには、▼ を押して**高音**を選択し、◀ / ▶ を使って音量レベルを調整します。
4. 低温を調整するには、▼ を押して**低音**を選択し、◀ / ▶ を使って音量レベルを調整します。

選択	◀ キー ▶	
音量	低い	高い
高音	弱い	強い
低音	弱い	強い

リモートからのページ操作

ページ操作機能を使用する前に、プロジェクタと PC を USB ケーブルで接続します。詳細は、23 ページの " コンピュータの接続 " を参照してください。



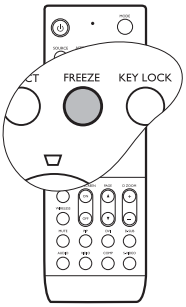
Page Up/Down コマンドに応答する（Microsoft PowerPoint など）ディスプレイソフトウェア（PC 上にインストール）は、リモコンの **PAGE ▲/▼** キーを使って操作することができます。

ページ移動をリモート操作できない場合は、USB 接続が正しく行われているか、また最新バージョンのマウスドライバがコンピュータにインストールされているかを確認してください。

リモートページ操作機能は、Microsoft® Windows® 98 では使用できません。Windows® XP 以上のオペレーティングシステムをご使用になることをお薦めします。

画像の静止

リモコンの **FREEZE** 押すと画像が静止します。**'FREEZE'** スクリーンの右上隅にアイコンが表示されます。この機能を解除するには、プロジェクタかリモコンでどれでもキーを押してください（**LASER** 以外 ）。



スクリーン上で画像が静止しても、ビデオやその他の装置で映像は流れ続けています。接続した装置に有効なオーディオが含まれている場合は、画像が静止しても音声は聞くことができます。

コントロールキーをロックする

リモコンやプロジェクタのコントロールキーをロックしておくと、プロジェクタの設定が誤って変更されるのを防止することができます。キーロックがオンの場合、リモコンおよびプロジェクタのコントロール キーは、LASER、**電源** 、および EXIT 以外は機能しません。

キーをロックするには：

- **リモコンの使用方法**

リモコンの KEY LOCK を押します。するとコントロールキーがロックされます。

- **OSD メニューの使用方法**

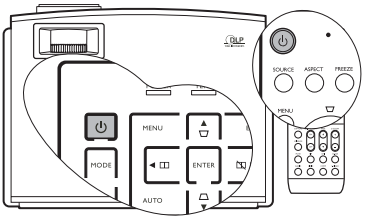
1. MENU を押して、**詳細セットアップ**メニューが表示されるまで ◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、**キー ロック**を選択し、次に ENTER を押してください。するとコントロールキーがロックされます。

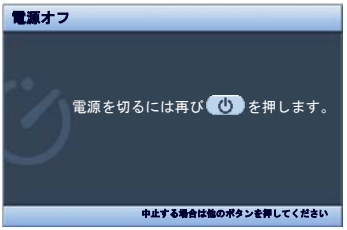


キーをロック解除するには、プロジェクタで 5 秒間 EXIT を押しつづけるか、リモコンで EXIT を押します。

プロジェクタの終了

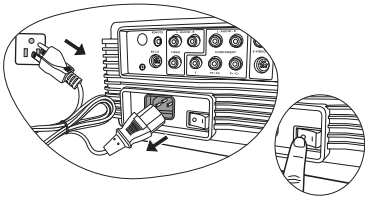
1. リモコンかプロジェクタで ⏻ **電源**を押すと、確認メッセージが表示されます。
   数秒以内に応答しなければ、メッセージは自動的に消えます。
2. 2 回目の ⏻ **電源**を押してください。**電源インジケータライト**がオレンジ色に点滅して投写ランプが消灯した後、プロジェクタを冷却するためにファンが約 90 秒間動作を続けます。





ランプを保護するため、冷却プロセスの間はプロジェクタはいかなるコマンドにも反応しません。

3. 冷却が完了し、ファンが停止すると、電源インジケータライトはオレンジ色に点灯します。
4. 電源コードをコンセントから抜きます。



プロジェクタの電源を切った後は、冷却時間を待たずに直ちに電源プラグを外すことができます。プロジェクタのプラグを外してもプロジェクタは冷却を続けますので、プロジェクタを仕舞う準備をすることができます。プロジェクタがオフラインで冷却を行っている間は、プロジェクタを再起動することはできません。

メニューの操作

メニューシステム

OSD メニューは、選択した信号のタイプにより異なります。

メインメニュー	サブメニュー		オプション
ピクチャ -- 基本設定	ピクチャ モード		(PC) ダイナミック / プレゼンテーション /sRGB/ シネマ / ブラックボード / ユーザー 1/ ユーザー 2/ ユーザー 3 (ビデオ) ダイナミック / 標準 / シネマ / ユーザー 1/ ユーザー 2/ ユーザー 3
	設定のロード元 :		
	輝度		0–100
	コントラスト		0–100
	色		0–100
	色合い		-20–+20
	シャープネス		0–8
	ピクチャ設定をリセット		
	ユーザー モード名の変更		
ピクチャ -- 詳細設定	黒レベル		0 IRE/7.5 IRE
	透明度調整	ノイズ リダクション	0/1/2/3
		詳細拡張設定	0–10
		ルマ転送	0/1/2
		クロマ転送	0/1/2
	色温度		ランプ ネイティブ / 高い / 標準 / 低い / ユーザー 1/ ユーザー 2/ ユーザー 3
	ユーザー _ の色温度の微調整	赤ゲイン	0–100
		緑ゲイン	0–100
		青ゲイン	0–100
		赤オフセット	0–100
		緑オフセット	0–100
		青オフセット	0–100
	ガンマ選択		ガンマ 1-8
	色管理	基本色	赤 / 黄 / 緑 / シアン / 青 / マゼンタ
		範囲	0–100
		彩度	0–100
	カラー スペース転送		デフォルト /RGB/YUV
	Signal Shuttle	（詳細については、Signal Shuttle の説明書を参照してください）	

ディスプレイ	縦横比		4:3/ アナモフィック / 全画面 / レターボックス / ワイド / 実寸
	デジタル画面シフト		-24–+24
	キーストーン	2D キーストーン	
		ピンクッション補正	-20–+20
	接続式レンズ		オン / オフ
	位置		
	オーバースキャン調整		0/1/2/3
	デジタル ズーム		100%–300%
	パン		
	PIP	PIP	オン / オフ
		入力ソース	アナログ RGB/DVI-A/DVI-D/RJ-45/ S ビデオ / コンポーネント / ビデオ
		2 番目のソース	
		アクティブ ウィンドウ	メイン / 秒
		位置	右上 / 左上 / 右下 / 左下
		サイズ	大きい / 小さい
	Split Screen	Split Screen	オン / オフ
		分割画面の関連性	均等に分割 / プロポーショナル / 左側を大きく / 右側を大きく
		左ソース	アナログ RGB/DVI-A/DVI-D/RJ-45/ S ビデオ / コンポーネント / ビデオ
		右ソース	
		アクティブ ウィンドウ	左 / 右
	PC と コンポーネント YPbPr の調整	水平サイズ	-15–+15
		位相	-15–+15
		自動	

システム設定	**言語**		ENGLISH/ FRANÇAIS/ DEUTSCH/ ITALIANO/ ESPAÑOL/ РУССКИЙ/ 繁體中文/ 简体中文/ 日本語/ 한국어/ Svenska/ Nederlands/ Türkçe/ Čeština/ Português/ ไปรตุเกส/ Polski
	起動画面		**BenQ/ 青 /MyScreen**
	MyScreen		
	プロジェクタの配置		**床面前面 / 天井前面 / 床面背面 / 天井背面**
	消画タイマー		**無効 /5 分 /10 分 /15 分 /20 分 /25 分 / 30 分**
	自動電源オフ		**無効 /5 分 /10 分 /15 分 /20 分 /25 分 / 30 分**
	スリープ タイマー		**無効 /30 分 /60 分 /90 分 /120 分 / 150 分 /180 分 /240 分 /300 分 /360 分**
	背景色		**パープル / 黒 / 青**
	メニュー設定	**メニュー表示時間**	**5 秒 /10 秒 /15 秒 /20 秒 /25 秒 /30 秒**
		メニュー位置	**中央 / 左上 / 右上 / 右下 / 左下**
	入力ソース		**アナログ RGB/DVI-A/DVI-D/RJ-45/ S ビデオ / コンポーネント / ビデオ**
	自動ソース探知		**オン / オフ**
詳細セットアップ	**ランプ**	**ランプ電源**	**標準 / エコ**
		ランプ時間	**(ランプ時間情報を表示します)**
		タイマーのリセット	
	オーディオ	**ミュート**	**オン / オフ**
		音量	**0–10**
		高音	**0–10**
		低音	**0–10**
	パターン	**グリッド**	
		カラーバー	
	高地モード		**オン / オフ**
	パスワード	**パスワード**	**オン / オフ**
		パスワードの変更	**(現在のパスワードを入力します)**
	キー ロック		
	全設定をリセット		
情報	**ソース**		
	ピクチャ モード		
	解像度		
	システム		
	ランプ時間	**標準**	
		エコ	

メニューアイテムはプロジェクタが最低 1 つの有効な信号を検出しなければ有効にはなりません。プロジェクタに装置が接続されていなかったり、信号が何も検出されなければ、限られたメニューアイテムにしかアクセスすることができません。

ピクチャ -- 基本設定メニュー

機能 （デフォルト設定 / 値）	説明（デフォルト / 設定値）
ピクチャ モード (**アナログ RGB/DVI-A/ DVI-D/RJ-45**: **プレゼンテーション** ; **S ビデオ / コンポーネント / ビデオ** : **標準**)	あらかじめ定義したピクチャモードを利用すると、ご使用のプログラムタイプに最適なプロジェクタの画像を設定することができます。詳細は、43 ページの " ピクチャモードの選択 " を参照してください。
設定のロード元 :	必要な画質に最も合ったピクチャモードを選択し、下にリストした選択内容を元に画像を微調整します。詳細は、44 ページの " ユーザー 1/ ユーザー 2/ ユーザー 3 モードの設定 " を参照してください。
輝度 （選択した入力ソースによって変わります）	画像の輝度を調整します。詳細は、46 ページの " 調整輝度 " を参照してください。
コントラスト （選択した入力ソースによって変わります）	画像の明るさと暗さの差を調整します。詳細は、46 ページの " 調整コントラスト " を参照してください。
色 （選択した入力ソースによって変わります）	彩度レベル -- ビデオ映像の各色の量を調整します。詳細は、46 ページの " 調整色 " を参照してください。
色合い （選択した入力ソースによって変わります）	画像の赤と緑を調整します。詳細は、46 ページの " 調整色合い " を参照してください。
シャープネス (2)	画像がシャープまたはソフトになるように調整します。詳細は、46 ページの " 調整シャープネス " を参照してください。
ピクチャ設定をリセット	**ピクチャ -- 基本設定**と**ピクチャ -- 詳細設定**メニューの全設定を工場出荷時の値に戻します。詳細は、45 ページの " ピクチャモードのリセット " を参照してください。
ユーザー モード名の変更	**ユーザー 1**、**ユーザー 2**、あるいは**ユーザー 3** に別名を付けます。詳細は、45 ページの " ユーザーモードの名前変更 " を参照してください。

ピクチャ -- 詳細設定メニュー

機能 （デフォルト設定 / 値）	説明
黒レベル **(0 IRE)**	画像のグレイスケールを **0 IRE** か **7.5 IRE** に設定します。詳細は、47 ページの " 設定黒レベル " を参照してください。
透明度調整	画像の明瞭さを調整します。詳細は、47 ページの " 画像の透明度を調整する " を参照してください。
色温度 (選択した**ピクチャ モード**によります)	いくつかの色温度設定が使用できます。詳細は、48 ページの " 色温度の選択 *" を参照してください。
ユーザー _ の色温度の微調整	詳細は、48 ページの " 色温度の設定 " を参照してください。
ガンマ選択 (選択した**ピクチャ モード**によります)	詳細は、50 ページの " ガンマ設定の選択 " を参照してください。
色管理	詳細は、49 ページの " 色管理 " を参照してください。
カラー スペース転送 (**デフォルト**)	詳細は、50 ページの " カラー スペース転送 " を参照してください。
Signal Shuttle	**RJ-45** 信号を介した投写画像の品質を調整します。 このメニューはオプションのアクセサリである、Signal Shuttle が接続されており、**RJ-45** 信号が検出されていなければ使用できません。Signal Shuttle は BenQ 製品取り扱い店でお求めいただけます。

ディスプレイメニュー

機能 （デフォルト設定 / 値）	説明
縦横比 (**全画面**)	入力信号ソースによって、画像の縦横比を設定するためのいくつかのオプションがあります。詳細は、40 ページの " 縦横比の選択 " を参照してください。
デジタル画面シフト (0)	投写画像の垂直位置を調整します。詳細は、40 ページの " 黒いエリア周りの画像をシフトする " を参照してください。
キーストーン (0)	画像のキーストーンを補正します。詳細は、38 ページの " 画像の歪みの補正する " を参照してください。
位置 (0)	位置調整ページが開きます。投写画像の位置を変えるには、方向矢印キーを使用します。ページの下に表示される値は、キーを押すたびにその最高値または最低値に達するまで変化します。
オーバースキャン調整 (**S ビデオ / ビデオ** : 1、残り : 0)	四辺の画質が悪いエリアを隠します。隠す割合は、◀/▶を使って手動で調整することもできます。0 に設定すると、画像が 100% 完全に表示されます。値を高くするほどより多くのエリアが隠され、スクリーンは幾何学的に正確に埋め尽くされます。
デジタル ズーム (100%)	投写画像を拡大します。詳細は、42 ページの " 投写画像の詳細を拡大および表示する " を参照してください。
パン (中央)	画像を拡大した後、投写画像の詳細を探すためにパンページが開きます。詳細は、42 ページの " 投写画像の詳細を拡大および表示する " を参照してください。
PIP	PIP ウィンドウをオン / オフにして、関係のある調整を行います。詳細は、53 ページの "PIP (Picture In Picture) の操作 " を参照してください。
Split Screen	投写スクリーンを 2 つに均等に分割し、関係のある調整を行います。詳細は、52 ページの " 画像の分割 " を参照してください。
PC と コンポーネント YPbPr の調整	**水平サイズ** (0) 画像の幅を調整します。 **位相** (0) クロック位相を調整して画像の歪みを縮減します。 **自動** 位相と周波数を自動的に調整します。 

システム設定メニュー

機能 （デフォルト設定 / 値）	説明
言語 (English)	オンスクリーンメニューの言語を設定します。詳細は、32 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。
起動画面 (BenQ ロゴ)	プロジェクタ起動時に表示されるロゴ画面を、ユーザーが選択することができます。選択肢には以下の 3 つがあります。**BenQ** ロゴスクリーン、**青**スクリーン、または **MyScreen**。
MyScreen	キャプチャした投写画像を MyScreen として保存します。詳細は、55 ページの " オリジナルのスタートアップ画面を作成する " を参照してください。
プロジェクタの配置 (**床面前面**)	プロジェクタは、天井またはスクリーンの背後に設置したり、1 枚あるいは複数のミラーを使用して設置することができます。詳細は、17 ページの " 場所の選択 " を参照してください。
消画タイマー (無効)	ブランク機能が有効になっているとき、画像をブランクにしておく時間を選択します。ここで設定した時間が経過すると、画像は元に戻ります。詳細は、51 ページの " 画像を隠す " を参照してください。
自動電源オフ (無効)	長時間信号が何も検出されなければ、投写を停止します。詳細は、71 ページの " 設定自動電源オフ " を参照してください。
スリープ タイマー (無効)	自動的にシャットダウンするまでのタイマーを設定します。タイマーは 30 分から 3 時間までの範囲で設定できます。
背景色 (**青**)	入力信号が検出されないときに表示される、背景スクリーンの色を選択します。
メニュー設定	**メニュー表示時間**（15 秒） 最後にキーを押してからの OSD の表示時間を設定します。設定は 5 秒毎に 5 から 30 秒までの範囲で設定できます。 **メニュー位置**（中央） オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。
入力ソース	投写する入力ソースを選択します。詳細は、36 ページの " 入力ソースの切り替え " を参照してください。
自動ソース探知 （オン）	プロジェクタで自動的に入力ソースを検索するかどうかを設定します。ソーススキャンが**オン**の場合、プロジェクタは信号を取得するまで入力ソースをスキャンします。この機能が有効になっていない場合は、最後に使用した入力ソースが選択されます。デフォルト値は**アナログ RGB** です。

詳細セットアップメニュー

機能 （デフォルト設定 / 値）	説明
ランプ	**ランプ電源** (標準) プロジェクタのランプのモードを**標準**か**エコ** (省電力) に切り替えます。 **ランプ時間** ランプ時間情報を表示します。 詳細は、70 ページの " ランプ時間を知るには " を参照してください。 **タイマーのリセット** ランプを交換した後は、**リセット**を選択してランプタイマーを 0 に戻してください。 詳細は、74 ページの " ランプタイマーのリセット " を参照してください。
オーディオ	**ミュート** (オフ) プロジェクタのオーディオをオン / オフにします。 **音量** (5) 音量を調整します。 **高音** (5) 高音レベルを調整します。 **低音** (5) 低音レベルを調整します。 詳細は、57 ページの " 音量調整 " を参照してください。
パターン	**グリッド** ENTER を押すとグリッドテストパターンが表示されます。これは画像サイズとピントを調整し、投写画像に歪みがないかどうかを確認するときに使用します。 **カラーバー** ENTER を押すとカラーバーテストパターンが表示されます。このテストパターンは色が思い通りに表示されているかどうかを確認するときに使用します。
高地モード （オフ）	高地や温度が高い場所で使用するときのモードです。詳細は、51 ページの " 高地での操作 " を参照してください。
パスワード	**パスワード** (オフ) パスワードを知っているユーザーのみプロジェクタを操作できるようにします。詳細は、33 ページの " パスワード機能の使い方 " を参照してください。 **パスワードの変更** 新しいパスワードに変更する前に、現在のパスワードを入力するよう要求されます。詳細は、33 ページの " パスワード機能の使い方 " を参照してください。

キー ロック	LASER と EXIT を除き、プロジェクタおよびリモコンのキーをロックします。詳細は 59 ページの " コントロールキーをロックする " を参照してください。
全設定をリセット	すべての設定を工場出荷時の値に戻します。 **次の設定は現在の設定値のまま維持されます。ユーザーモードの名前、水平サイズ、位相、言語、プロジェクタの配置、高地モード、ランプ、パスワード。**

情報メニュー

このメニューでは、プロジェクタの現在の操作状態を表示します。

項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。

機能	説明
ソース	現在の信号ソースを表示します。
ピクチャ モード	**ピクチャ -- 基本設定 > ピクチャ モード**メニューで選択したモードを表示します。
解像度	入力ソースの最高解像度を表示します。
システム	現在の規格：NTSC、PAL、SECAM を表示します。
ランプ時間	**標準**モードと**エコ**モードでの使用した場合のランプ時間を表示します。

6. メンテナンス

プロジェクタのお手入れ

ご使用のプロジェクタはほとんどメンテナンスの必要がありません。レンズを清潔に保つために、定期的なレンズのお手入れだけが必要です。詳細は、" レンズのクリーニング " を参照してください。

ランプ以外はプロジェクタの部品は一切取り外さないでください。ランプ以外の交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。

レンズのクリーニング

表面の汚れやほこりが付いていたら、レンズをクリーニングします。

- 圧縮空気スプレーを使用してほこりを取り除きます。
- 汚れやしみが付いた場合は、レンズクリーニングペーパーまたはレンズクリーナで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。

☞ **レンズは絶対に研磨剤でこすらないでください。**

プロジェクタケースのクリーニング

ケースのお手入れを行う前に、59 ページの " プロジェクタの終了 " に記載されている正しい手順でプロジェクタの電源を切り、電源コードを抜いてください。

- ほこりや汚れを取り除くには、乾燥した柔らかい、けば立ちのない布で拭きます。
- 落ちにくい汚れやしみを取り除くには、水で薄めた中性洗剤で布を湿らせて、ケースを拭きます。

☞ **ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、ケースを傷める場合があります。**

プロジェクタの保管

長期間プロジェクタを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度と湿度が、プロジェクタの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、78 ページの " 仕様 " を参照されるか、販売店にお尋ねください。
- アジャスタフットを格納します。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクタを元の梱包または同等の梱包にしまいます。

プロジェクタの移動

プロジェクタを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。

ランプについて

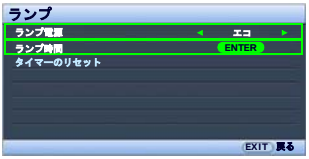
ランプ時間を知るには

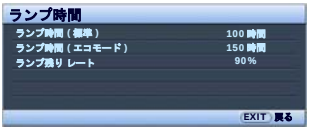
プロジェクタが作動している間、プロジェクタに内蔵されたタイマーがランプの使用時間（時間単位）を自動的に計算します。ランプ時間の計算方法は次の通りです。

ランプ時間（補正済み）
= 1（省電力モードでの使用時間）+4/3（標準モードでの使用時間）

☞ **エコモードについての詳細は、" ランプ電源をエコモードに設定する " を参照してください。**







ランプ使用時間を知るには：

1. MENU を押して、**詳細セットアップ**メニューが表示されるまで◀/▶ を押してください。
2. ▼ を押して、**ランプ**を選択し、次に ENTER を押してください。すると**ランプ**ページが表示されます。
3. **ランプ時間**を選択して ENTER を押すと、**ランプ時間**ページが表示されます。
4. メニューを終了するには、MENU を押します。

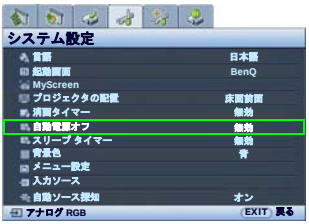
ランプ残り レートについて：

ランプ残り レートはランプの残り寿命をパーセンテージで示します。レートの計算方法は次の通りです。

残りレート = [1 - (ランプの合計時間 /4000)] x 100%

ランプ寿命を延長する

投写ランプは消耗品であり、通常は正常に使用していれば 3000-4000 時間もちます。ランプの寿命をできるだけ長く維持するには、OSD メニューで次の設定を行ってください。



- **ランプ電源をエコモードに設定する**

エコモードに設定すると、システムノイズと電力消費量を最高で 20% まで低減することができます。**エコ**モードを有効にすると、出力されるライトが低減され、その結果投写画像が暗くなります。

プロジェクタを**エコ**モードで使用すると、ランプタイマーの自動シャットダウン機能が延長されます。**エコ**モードに設定するには、**詳細セットアップ** > **ランプ** > **ランプ電源**メニューに進み、◀/▶ を押します。

- **設定自動電源オフ**

指定した時間を経過しても入力ソースが検出されないときに、自動的にプロジェクタの電源をオフにします。

自動電源オフモードに設定するには、**システム設定 > 自動電源オフ**メニューに進み、◀/▶ を押します。タイマーは 5 分おきに 5 分から 30 分の範囲で設定できます。プリセットの時間がこれから行うプレゼンテーションに合わない場合は、**無効**を選択してください。この場合、一定時間が経過してもプロジェクタは自動的にシャットダウンしません。

ランプ交換のタイミング

ランプインジケータが赤に点灯した場合、またはランプの交換時期であることを示すメッセージが表示された場合は、新しいランプを取り付けるか、お買い上げの販売店にご相談ください。古いランプを使用すると、プロジェクタの誤動作の原因となり、ランプが破裂することもあります。

ランプの温度が異常に高くなると、ランプインジケータライトおよび温度警告ライトが点灯します。この場合は、電源をオフにして 45 分間ほど放置し、プロジェクタを常温に戻してください。このようにしても電源をオンにしたときにランプインジケータまたは温度インジケータが点灯する場合は、販売店にご相談ください。詳細は、75 ページの " インジケータ " を参照してください。

次のランプ警告が表示されたら、ランプを交換してください。

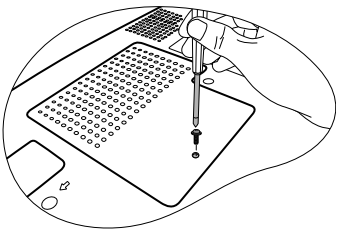
状態	メッセージ
ランプの動作時間が 3000 時間を超えました。動作を最適化するために、新しいランプを取り付けてください。通常プロジェクタを**エコ**モードで起動している場合は（70 ページの " ランプ時間を知るには " を参照してください）、3950 時間のランプ警告メッセージが表示されるまでプロジェクタを使用することができます。 ENTER を押すと、メッセージが消去されます。	
ランプの動作時間が 3950 時間を超えました。この時点でランプを交換されるよう強くお薦めします。ランプは消費アイテムです。ランプは使用を重ねる毎に明るさが徐々に失われます。これは正常な現象です。ランプが非常に暗くなったら、いつでもランプを交換してください。ランプの使用時間が 3950 時間を超えたらランプを交換してください。 ENTER を押すと、メッセージが消去されます。	
ランプの動作時間が 4000 時間を超えました。プロジェクタを正常に動作させるには、ランプを交換してください。 ENTER を押すと、メッセージが消去されます。	

ランプの交換

⚠
- **感電を防ぐため、ランプを交換する前には必ずプロジェクタの電源をオフにし、電源コードを抜いてください。**
- **重度のやけどを負う危険を防ぐため、ランプを交換する前に、最低でも 45 分間はプロジェクタを冷却してください。**
- **割れて鋭くなったランプのガラス片を取り除く場合は、指をけがしたり、内部部品を破損したりしないように、十分注意してください。**
- **指のけがや、レンズに触れることによる画質の劣化を避けるため、ランプを取り外すときに空のランプケースには触れないでください。**
- **このランプの中には水銀が入っています。ランプの処分は、地元の有害廃棄物規制条例にしたがって、正しい方法で行ってください。**

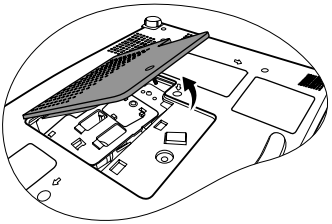
1. 電源をオフにして、プロジェクタをコンセントから抜きます。ランプが高温になっている場合は、やけどを防ぐためにランプを約 45 分間放置して常温に戻してください。

2. プロジェクタを上下に裏返します。ランプカバーのネジを緩めます。

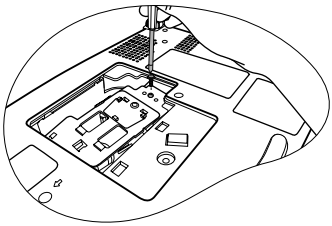


3. プロジェクタからランプカバーを外します。

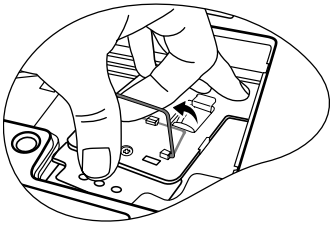
⚠ **ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。**



4. ランプを固定しているネジを緩めます。

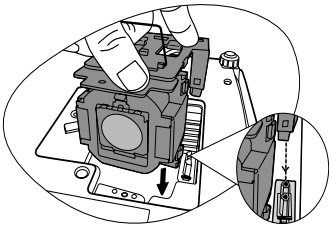


5. ハンドルを上に持ち上げてください。ハンドルを使ってゆっくりとランプをプロジェクタから引き出します。

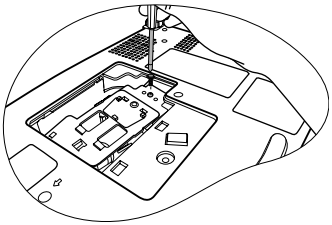


☞ • **急激に引っ張るとランプが割れ、ガラスの破片がプロジェクタ内に散乱します。**
- **取り出したランプは、水のかかる場所、子供の手が届く場所、可燃物の付近には置かないでください。**
- **ランプを取り外した後は、プロジェクタ内に手を入れないでください。内部の光学部品に手を触れると、投写画像の色が不均一になり歪む場合があります。**

6. 図に示す通り、新しいランプを手に持ち、プロジェクタ上にランプを設置する穴とランプを合わせて、ランプをプロジェクタの中へ完全に挿入してください。



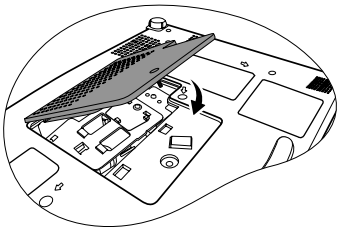
7. ランプを固定しているネジを締めます。



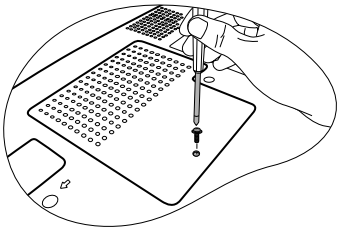
☞ • **ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。**
- **ネジを締め過ぎないでください。**

8. ハンドルが完全にフラットな状態になっており、ロックされていることを確認してください。

9. プロジェクタにランプカバーを戻します。



10. ランプカバーを固定しているネジを締めます。



☞ • **ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。**
- **ネジを締め過ぎないでください。**

11. プロジェクタを再起動してください。

☞ **ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。**

ランプタイマーのリセット

12. スタートアップロゴが表示された後、MENU を押して、**詳細セットアップ**メニューが選択されるまで ◀/▶ を押してください。
13. ▼ を押して**ランプ**を選択し、次に ENTER を押してください。すると**ランプ**ページが表示されます。
14. **タイマーのリセット**を選択し、ENTER を押します。ランプタイマーをリセットしても良いかどうかを確認するためのメッセージが表示されます。**リセット**を選択し、ENTER を押します。するとランプ時間が 0 にリセットされます。







☞ **ランプを交換していない場合はリセットしないでください。ランプが破損する恐れがあります。**

インジケータ

ライト			状態と説明
電源	温度	ランプ	
オレンジ	オレンジ	オレンジ	プロジェクタがたった今コンセントに接続されました。
オレンジ	赤	赤	メイン電源がオンになっています
オレンジ	オフ	オフ	スタンバイモード
緑 点滅	オフ	オフ	電源を入れています
緑	オフ	オフ	通常動作状態です
オレンジ 点滅	オフ	オフ	• 通常の冷却プロセスを経過せずに異常終了したため、プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。 • 電源を切った後、プロジェクタは 90 秒間の冷却時間が必要です。
オフ	オフ	赤	• ランプが破損しています。お近くの BenQ カスタマーセンターへお問い合わせの上、新しいランプをご購入ください。
オレンジ	オフ	赤	• ランプが正しく装着されていません。 • ランプが破損しています。お近くの BenQ カスタマーセンターへお問い合わせの上、新しいランプをご購入ください。
オフ	赤	オフ	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
オフ	赤	赤	
オフ	赤	緑	
オフ	赤	オレンジ	
赤	赤	赤	
赤	赤	緑	
赤	赤	オレンジ	
緑	赤	赤	
緑	赤	緑	
緑	赤	オレンジ	
オレンジ	赤	赤	
オレンジ	赤	緑	
オレンジ	赤	オレンジ	
オフ	緑	赤	
オフ	緑	オレンジ	
オフ	オレンジ	赤	

7. トラブルシューティング

⑦ プロジェクタの電源がオンにならない。

原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードをプロジェクタの電源コードソケットとコンセントに差し込みます。コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認します。
冷却プロセスの間にプロジェクタの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

⑦ 画像が映らない

原因	対応
ビデオソースがオンになっていないか、正しく接続されていません。	ビデオソースをオンにし、信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
プロジェクタが正しく入力ソース機器に接続されていません。	接続を確認します。
入力ソースが正しく選択されていません。	プロジェクタまたはリモコンの **SOURCE** キーで正しい入力ソースを選択します。
レンズキャップが装着されたままです。	レンズキャップを取り外します。

⑦ 画像がぼける

原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	ピントリングで焦点を合わせます。
プロジェクタとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であれば装置の高さを調整します。
レンズキャップが装着されたままです。	レンズキャップを取り外します。

⑦ リモコンが機能しない

原因	対応
電池が切れています。	電池を新しい電池に交換します。
リモコンとプロジェクタの間に障害物があります。	障害物を取り除きます。
プロジェクタからの距離が遠すぎます。	プロジェクタから 6 メートル（19.5 フィート）以内の場所に立ちます。

⑦ 温度警告ライトが赤く点滅している。

原因	対応
内部温度が高すぎるか、ファンが作動していません。	プロジェクタの電源をオフにし、認定サービス担当者にお問い合わせください。詳細は、75 ページの " インジケータ " を参照してください。

? コンピュータの投写画像がスクリーンに対して大きすぎるか、一部切れてしまう

原因	対応
コンピュータの解像度がプロジェクタの解像度と一致していません。	1. **ディスプレイ** > **位置**メニューで、水平位置と垂直位置が正しく設定されていることを確認してください。 2. コンピュータの外付けディスプレイの解像度をプロジェクタの最高解像度 (SP830/SP831 の場合は 1280 x 768) に合わせて設定してください。このオプションを選択できない場合は、79 ページの "PC (DVI-I を含む) 入力のサポートタイミング " にリストされるものの中から対応するものを選択してください。 3. プレゼンテーションファイルが別の解像度で作成されていないかどうかを確認してください。
コンピュータの外付けモニタが 640 x 480 にロックされています。	

? My Window Media Player プログラムはコンピュータ上で正常に作動しますが、Media Player ツールが [OK] と表示されているにも関わらずプロジェクタではムービーウィンドウが暗くなります。

原因	対応
コンピュータの外付けモニタが第 2 ディスプレイとして設定されています。	画面の設定を変更してください。スタート > コントロールパネル > 画面 > 設定 > 詳細 > 画面を選択します。この手順で [画面] 設定が見つからない場合は、コンピュータの取り扱い説明書をお読みください。モニタをプライマリに、パネルをセカンダリに設定します。投写スクリーンにムービーウィンドウが表示され、パネルムービーウィンドウは暗くなります。

? リモートマウスが正常に作動しない。

原因	対応
USB ケーブルがコンピュータかプロジェクタに正しく接続されていません。	接続を確認します。詳細は、23 ページの " コンピュータの接続 " を参照してください。 それでも問題が残る場合は、マウスドライバを確認してください。詳細については、マウスの取り扱い説明書をお読みください。

? 画像にノイズが走る

原因	対応
2 メートル以上の長さのコンピュータケーブルか、延長コードを使用しています。	信号ケーブルを正規の長さに変更し、延長ケーブルは使用しないでください。
コンピュータケーブルとビデオケーブルが競合しています。	コンピュータケーブルとビデオケーブルを電源コードからできるだけ遠くに離してください。

8. 仕様

プロジェクタの仕様

☞ 仕様はすべて予告なしに変更されることがあります。

光学

解像度
1280 x 768 WXGA

表示システム
1-CHIP DMD

レンズ F/ 番号
F=2.4 ～ 2.58、f= 22.32 ～ 26.06 mm

ランプ
300 W ランプ

電気仕様

電源
AC100–240V、4.5A、50-60 Hz (自動)

消費電力
450 W (最大)、1.5 W (スタンバイ)

機械仕様

重量
10 lbs (4.5 Kg)

出力端子

RGB 出力
D-Sub 15-pin （メス）x 1

オーディオ出力
RCA オーディオジャック (L/R)

スピーカー
(ステレオ) 2W x 2

コントロール

USB シリアルコントロール
タイプミニ B

RS-232 シリアルコントロール
Mini DIN 8-pin x 1

入力端子

コンピュータ入力
RGB 入力
D-Sub 15-pin （メス）x 1
DVI-I 入力
RJ-45 x 1

ビデオ信号入力
S ビデオ
Mini DIN 4-pin ポート x 1
ビデオ
RCA ジャック x 1
SD/HDTV 信号入力
アナログ - コンポーネント RCA ジャック x 3
デジタル - DVI (HDCP サポート)

オーディオ信号入力
オーディオ入力
PC オーディオジャック
D-Sub、DVI (HDCP) 信号用
RCA オーディオジャック (L/R)
ビデオ、S ビデオ、コンポーネント信号用

使用環境条件

動作温度範囲
0°C–40°C(海抜)

操作時の相対湿度
10%–90% (結露なきこと)

動作高度
0–1499m (0°C–35°C)
1500–3000m (0°C–30°C)
(高地モードオンのとき)

タイミングチャート

PC (DVI-I を含む) 入力のサポートタイミング

解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	ピクセル周波数 (MHz)	モード
720 x 400	31.469	70.087	28.3221	720 x 400_70
640 x 480	31.469	59.940	25.175	VGA_60
	37.861	72.809	31.500	VGA_72
	37.500	75.000	31.500	VGA_75
	43.269	85.008	36.000	VGA_85
800 x 600	37.879	60.317	40.000	SVGA_60
	48.077	72.188	50.000	SVGA_72
	46.875	75.000	49.500	SVGA_75
	53.674	85.061	56.250	SVGA_85
1024 x 768	48.363	60.004	65.000	XGA_60
	56.476	70.069	75.000	XGA_70
	60.023	75.029	78.750	XGA_75
	68.667	84.997	94.500	XGA_85
1280 x 768	47.776	59.87	79.5	WXGA_60
1280 x 1024	63.981	60.020	108.000	SXGA_60
	79.976	75.025	135.000	SXGA_75
	*91.146	*85.024	*157.500	*SXGA_85
1280 x 960	60.000	60.000	108	1280 x 960_60
	85.938	85.002	148.500	1280 x 960_85
1440 x 900	55.935	59.887	106.500	WXGA+_60
	70.635	74.984	136.750	WXGA+_75
	*80.430	*84.842	*157.000	*WXGA+_85
1400 x 1050	65.317	59.978	121.750	SXGA+_60
	*82.278	*74.867	*156.000	*SXGA+_75
1680 x 1050	65.290	59.954	146.250	Vista
**1600 x 1200	75.000	60.000	162.000	UXGA
ビデオ (HDCP) **(DVI-D 専用)**	15.75	60	13.51	480i
	31.47	60	27	480p
	15.63	50	13.5000	576i
	31.25	50	27.000	576p
	45.00	60	74.25	720p_60
	37.50	50	74.25	720p_50
	33.75	60	74.25	1035i
	67.5	60	148.5	1035p
	33.75	60	74.25	1080i_60
	28.13	50	74.25	1080i_50
	67.5	60	148.5	1080p

*** DVI-A または DVI-D 入力信号を選択した状態では、このタイミングはサポートされない場合があります。**

**** DVI-D 入力信号を選択した状態、または分割画面を使用した状態では、このタイミングはサポートされない場合があります。**

コンポーネントビデオ入力用にサポートされているタイミング

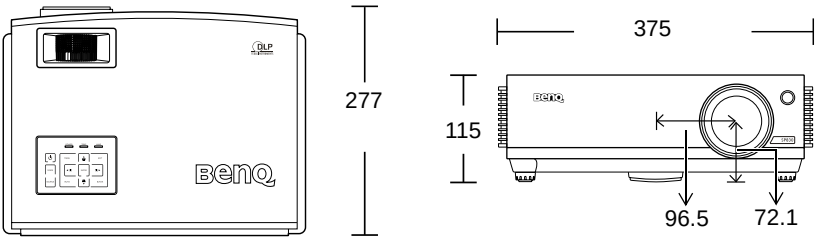
信号フォーマット	水平周波数（kHz）	垂直周波数（Hz）
480i(525i)@60Hz	15.73	59.94
480p(525p)@60Hz	31.47	59.94
576i(625i)@50Hz	15.63	50.00
576p(625p)@50Hz	31.25	50.00
720p(750p)@60Hz	45.00	60.00
720p(750p)@50Hz	37.50	50.00
1080i(1125i)@60Hz	33.75	60.00
1080i(1125i)@50Hz	28.13	50.00
1080p@60Hz	67.5	60.00

ビデオおよび S ビデオ入力用にサポートされているタイミング

ビデオモード	水平周波数（kHz）	垂直周波数（Hz）	カラー副搬送波周波数（MHz）
NTSC	15.73	60	3.58
PAL	15.63	50	4.43
SECAM	15.63	50	4.25 または 4.41
PAL-M	15.73	60	3.58
PAL-N	15.63	50	3.58
PAL-60	15.73	60	4.43
NTSC4.43	15.73	60	4.43

外形寸法

277 mm (幅) x 115 mm (高さ) x 375 mm (奥行き)



単位：mm

9. 保証と著作権について

限定保証

BenQ は、本製品が正常に使用および保管される場合に限り、本製品の材料および製造上の瑕疵がないことを保証します。

保証を受ける際には、購入日の証明が必要となります。保証期間中に本製品に瑕疵があることが判明した場合、BenQ の全責任と、お客様に対する全面的な補償は、瑕疵のある部品の交換 (工賃を含む) に限られます。保証サービスを受ける場合は、製品を購入した販売店に直ちに連絡してください。

重要：お客様が BenQ の文書による指示に従わずに操作を行った場合はこの保証は無効となります。特に本製品は環境湿度 10% から 90% の間、温度 0ºC から 35ºC の間、高度 4920 フィート以下の環境でご使用になり、ホコリが立ちやすい場所での使用はお止めください。この保証により、お客様には特定の法的権利が与えられます。また、在住している国によっては、お客様にその他の権利が与えられることもあります。

詳細は、弊社ホームページ www.BenQ.com をご覧ください。

著作権

Copyright © 2007 by BenQ Corporation.All rights reserved. 本書のいかなる部分も、BENQ Corporation の事前の書面による同意なく、電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動その他の手段を問わず、複製、転載、改変、検索システムへの保存、他言語またはコンピュータ言語への翻訳を行うことはできません。

*DLP 、Digital Micromirror Device 、および DMD は、Texas Instruments の商標です。その他の著作権は各社または各組織に帰属します。

免責

BenQ Corporation は、明示的または暗示的を問わず、本書の内容に関して、特に保証、商業的可能性、特定目的への適合性に関しては、いかなる表明または保証もいたしません。さらに、BenQ Corporation は本書を改定する権利と、このような改定や変更についていかなる人物に対しても BenQ Corporation が通知する義務を負うことなく内容を変更できる権利を有しています。

10. 法規

FCC 規則

B クラス：本デバイスはラジオ周波エネルギーを発生、使用し、さらに放射する可能性があり、指示にしたがってインストールおよび使用しなければ、ラジオ通信に有害な障害を与える場合があります。しかしながら、特定の方法で設置すれば障害を発生しないという保証は何もありません。このデバイスがラジオや TV 受信装置に有害な障害を与える場合は（デバイスの電源を一度切って入れなおすことにより確認できます）、障害を取り除くために次の方法にしたがってください。

- 受信アンテナの方向を変えるか、設置場所を変える
- このデバイスと受信装置の距離をあける
- このデバイスの受信装置とは別のコンセントに接続する
- ディーラーか経験のあるラジオ /TV 技術者に問い合わせる

EEC 規則

本装置は、EMC（Electronic Magnetic Compatibility：電磁的両立性）に関する ECC 指令 89/336/EEC に適合することが試験の結果確認されています。

MIC 規則

B クラス装置（家庭用情報 / 電気通信装置）

本装置は家庭用として EMC 登録を受けているため、本製品は住居地域を含む任意の地域で使用できます。

WEEE 指令

ヨーロッパ共同体における家庭からの電子および電気製品の廃棄について。

本製品または梱包材料に記載されているこの記号は、これを家庭廃棄物として破棄することができないことを意味しています。電子または電気装置の再利用規定に基づいて処理してください。本装置の再利用についての詳しい情報は、お住まい地域の市役所、本製品を購入された店、または家庭廃棄物処理機関にお問い合わせください。素材の再利用は自然環境の保護に役立つと共に、人類の健康や環境を確実に保護する方法で再利用されます。

